

Tsukuba

COMMUNICATIONS

Autumn

VOL.

17

AUTUMN
2012

対談

人間力を育てる文化・芸術

文化芸術を根付かせるファシリテーターと大学教育について

文化庁長官

監事

近藤 誠一 氏 × 内田 伸子



- ⑧ 特集 法科大学院
- ⑩ 聴 金信弘教授・原和彦准教授
- ⑫ 学内組織紹介 産学リエゾン共同研究センター(ILC)
- ⑭ 名物先生登場 竹内義晴教諭(附属坂戸高等学校)
- ⑯ Sports Club 男子バスケットボール部
- ⑰ Art & Culture E.S.S.
- ⑲ TOPICS イベント/受賞
- ⑳ OB&OG 垣根涼介さん
- ㉒ リレーエッセイ
- ㉓ 地域貢献
- ㉔ つくばSupporters
- ㉕ 新聞掲載・テレビ放送一覧
- ㉖ イベントカレンダー

IMAGINE
THE
FUTURE.

人間力を育てる 文化・芸術

文化芸術を根付かせる
ファシリテーターと大学教育について

文化庁長官

近藤 誠一 氏

×

監事

内田 伸子



日々の生活の中に 文化・芸術を

内田：5月には、「近藤誠一文化庁長官と語る会～21世紀文明と文化・芸術の役割」と題して、本学に講演にお越しいただきまして、本当にありがとうございました。

近藤：お世話になりました。本当に広々としていて、緑が多い、素晴らしいキャン

パスですね。キャンパスってこういう雰囲気が一番いいなと思いました。

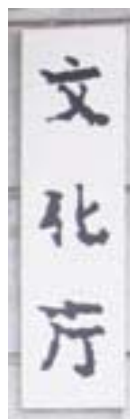
内田：ありがとうございます。対話をされながらのご講演ということで、大変感銘深く伺わせていただきました。そのときにもお話がございましたが、外務省にいらした近藤長官が、どのような経緯で文化庁長官になられたのか、簡単にお教えいただければと思います。

近藤：2年前、デンマークの大使をして

おりました時に、急きょ帰って来いという連絡を受けて帰国しましたら、文化庁長官にということでした。突然の話だったので私にもよくわからないのですが、当時、内閣の政策の一貫として、「その組織に長くいる人でない人材を、外部から登用することで、既存の枠にとらわれない発想で政策を進めていきたい」という方針があり、そのひとつのケースだったのだろーと思います。私の場合は、外務省が長かったので、国際政治の流れを見ながら国際化、国際交流をしっかりとやれということかな、と勝手に解釈して、お引き受けしました。

内田：海外の生活が長いということですが、海外と比べて、日本の文化度のレベルはいかがでしょうか。

近藤：40年ちかく外務省に籍をおいていたのですが、その半分以上を海外で過ごし、外から日本を見ていました。文化・芸術活動をされている日本のアーティスト





には、伝統的なもの、現代的なもの、日本的なもの、西洋的なもの…それぞれの分野に才能豊かな、優れた人材がいっぱいいますし、積極的な活動もしておられます。日本には神社仏閣や工芸品、彫刻といった有形文化財に加えて、無形文化財も素晴らしく、豊富にあります。そういう点においては、世界に冠たる文化大国だと思います。それから、国民の間には、物質的な豊かさだけではなく、心の豊かさを求める気持ちも高まっていますし、文化を評価したり鑑賞したりするセンスも、非常に研ぎ澄まされていると思うのです。ところが、そういう芸術活動なり、文化財を、一般の市民の方に提供する仕組みが十分に発達していないために、せっかく素晴らしい文化人・芸術家がおられ、文化財があっても、国民の日々の生活の中に十分に組み込まれていません。アートマネージメント的なことが、

欧米に比べると遅れていると思います。

内田: 私は、5月の連休に、「ボストン美術館 日本美術の至宝特別展」に、3回も足を運んだのですが、最初は、「こんなお宝が海外に流れてしまって悔しい」と思いました。でも、考えてみたら、あの時代、あのままの形で、日本に置いておいたら、日の目を見ないままになってしまったかもしれません。曾我蕭白の襖絵「雲龍図」などは、世界初の公開になったわけですね。あれだけ修復・保存し、しかも、世界の人たちに鑑賞していただけるコストのかけ方をしていただいたということは、ありがたいことだなと思いました。

近藤: そうですね。戦後、日本は、敗戦の灰塵の中から立ち直り、欧米の経済に追い付くにはまず経済力だと、あらゆる資源を経済成長に傾斜配分しました。富国強兵の強兵の部分で失敗をしたから、今度は、富国だということですね。それは成功したのだと思います。

ところが、そのシステムがそのまま残ってしまって、真の豊かさを追求する時代になって、文化芸術を一人一人の生活の中に組み込んでいくようなシステムを作っていかなければいけないにもかかわらず、それをやらずに、ずるずると来てしまったのです。今後、政府が、自治体などと協力しながらシステムを作って行けば、需要もあり、供給もあるので、うまくいくとは思いますが、財政難ということで、思うように進められないという現状もあります。

内田: 文化立国という標語が掲げられても、現実にはなかなか厳しいですね。

近藤: 経済成長を優先させる中で、政界や財界のリーダーもそうですが、社会全体に、「文化・芸術は、効果的な投資ではなく、使って終わりの、贅沢な消費であって、時間とお金のゆとりのある人が楽しむもの」というような意識が根付いてしまったことも問題です。

内田：OECD(経済協力開発機構)の幸福度調査によると、日本の幸福度は、36カ国中21位で、中でも「仕事と生活の調和」が一番低く、下から2番目の、34位でした。週50時間以上働く長時間労働者が全体の3割にも上がって、睡眠や食事、余暇の時間が少ないと評されました。

近藤：音楽を鑑賞する機会を作ったとしても、6時頃までには仕事を終えて、音楽ホールに行かないといけません。ところが、今の職場には、「レジャーというのは余計なことで、最も重要なことは働くこと」という意識があるので、「これから音楽会に行くから帰ります」と言った時に、喜んで送り出してくれる雰囲気はありません。この雰囲気が変わらなければ、文化・芸術が日常に定着したものにはならないのだと思います。

内田：本当に、そこが海外と日本の大きな違いですね。先日、ボストンにありまして、ボストン美術館に参りましたが、込み合ってなくて、じっくりと作品に向き合うことができました。日本では、大きい展覧会となると、「1時間並んで追われるように鑑賞する」という感じですので、ああ、こういうところが違うなと感じました。

近藤：文化・芸術は、皆さんに生きる力を与えます。つらく苦しい時でも、素晴らしい芸術を見ると、力が湧き、元気が出てくるものです。それから、芸術活動によって、コミュニケーション力が高まります。今の枠にとらわれずに、新しいものを求めていくという、イノベーション力も与えます。文化・芸術によって、このような「人間力」を養うためには、文化・芸術が一人一人の生活にしみ込まなきゃいけません。

文化・芸術教育で、主要教科の学力が向上

内田：日本では、学校教育の場でも、文化・芸術の持つ力が見過ごされているように感じます。学力低下以降、「ゆとりの時間」をなくして、主要教科の時間を増やし、美術や技術家庭科など、物作りに関連するような授業を縮小して



近藤 誠一氏 文化庁長官

1946年	神奈川県生まれ
1971年	東京大学教養学部教養学科イギリス科卒業
1972年	同大学大学院法学政治学研究科中退・外務省入省
1973～75年	英国オックスフォード大学留学
1975年～	国際報道課長、在フィリピン大使館参事官、在米国大使館参事官、同公使、経済局参事官、同審議官、OECD事務次長、広報文化交流部長、国際貿易・経済担当大使等を歴任
2006年	ユネスコ日本政府代表部特命全権大使
2008年	駐デンマーク特命全権大使
2010年	文化庁長官

しまったことに、私は、とても危機感を持っています。OECDのPISA(学習到達度)調査でも、日本の高校生の学力が非常に低いという結果が出ました。

近藤：そうですね。

内田：学力世界一のフィンランドは、「理性と感性の協働」という国家プロジェクトに取組みました。子どもたちは、小学生になると、美術館や博物館、図書館などへのフリーパスがもらえます。ルノワールやルーベンスの絵画に感動したり、恐竜の化石に地球の歴史

を体感したりというような生活をしながら、一方で、図書館などから、好きなだけ本を借りてくる。読書への関心と読書量も世界一で、父親が中学生の子どもにまで本の読み聞かせをして、人生を語り合うというような暮らしが、各家庭で展開されています。こうした生活によって、学習基盤力の底力が育ったというわけです。それから、2009年には、上海が初めてPISA調査に参入してきて、世界一になりました。昨年、上海の教育改革を担当した方のお話を伺



うちだ のぶこ
内田 伸子 監事

1946年 群馬県生まれ
1968年 お茶の水女子大学文教育学部教育学科卒業
1970年 同大学大学院人文科学 研究科修士課程修了、学術博士
1970年 一橋大学社会学部助手
1976年 お茶の水女子大学文教育学部専任講師
1980年 同大学助教授
1990年 同大学教授
1998年 同大学大学院人間文化研究科教授
2002年 同大学子ども発達教育研究センター長
2004年 同大学文教育学部部長
2005年 同大学理事・副学長
2011年 同大学客員教授・名誉教授、十文字学園女子大学特任教授
2012年 筑波大学常勤監事

う機会があったのですが、2001年から教育改革に取り組んだということでした。進学特区の学校から、校長やスーパーティーチャーを底辺校に派遣し、進学校には、底辺校で力を入れている書画や絵画、囲碁といった文化的なものを持ちこんだのだそうです。そうしたら、底辺校だけでなく、進学校の生徒たちの主要教科の成績が向上したというのです。特に、集中力がすごく上がったそうです。他にも、イギリスのアーツ・カウンシルの例もあります。芸

術家たちが芸術の授業をする「クリエイティブ・パートナーシップ」という授業を受けた子どもは、主要教科の成績がよくなったという結果で出たのです。読み・書き能力、とりわけ作文と会話の能力が向上したそうです。おそらく、その場で工夫したり、手を動かしたり、集中したりしたことが、学習意欲向上につながって、学力にもいい影響があったのではないかと思います。

近藤：芸術教育によって、英数国といった主要な教科の勉強をしようというモ

チベーションもあがりますね。日本は、学力を上げるためには、必ずしも、主要教科の時間を増やせばいいというわけではないというところを、理解せずに進んでしまっている感じがします。家庭での教育も、文化や芸術をもっと重視してほしいですね。子どもを塾に通わせるだけではなくて、「週に一回は、音楽会に行きなさい」とか「絵を習いにいきなさい」とか…。それは今の制度の下での受験には直接役立たないかもしれませんが、潜在的に本人のモチベーションを上げて、受験にもプラスになるはずですし、長期的には、本人の人格教育に必ずプラスになるわけですから。そういう長い目で見て、目の前の時間をうまく配分するようなことを、家庭でも、学校でも、職場でもやっていく。そうすれば、文化芸術の持つ大きな力で、日本の社会が変わっていくと思います。

筑波大学に優秀な ファシリテーター育成を期待

近藤：つい最近、「ファシリテーターの役割が将来大事になってくる」といった主旨のシンポジウムがありました。ここでいう「ファシリテーター」は、一般的に使われる、会議の進行役などを示す言葉ではなくて、「文化芸術の持つ力を一般の人に植えつける役割を持った人」という特定の意味です。イギリスの方のお話でしたが、この「ファシリテーター」が、今、イギリスを始めとするヨーロッパで注目されているということでした。例えば、音楽なら、ワークショップで、子どもたちにいい音楽を聞かせたり、演奏する機会を与えるといったさまざまな活動をする中で、この「ファシリテーター」は、何かを教えるのではなく、皆が持っている潜在的な能力を引き出すような働きかけをするのです。うまく潜在能力が引き出された子どもたちは見違えるように元気になり、目が輝いてきて、音楽だけでなく、あらゆる分野に積極的になり、人間力のある人間に育っていくというお話でした。

内田:子どもの頃のそういう体験は、とても大きな価値がありますね。

近藤:日本は、学校でも、家庭でも、職場でもそうですけれど、上の人が自分の知識を押し付け、下の人はそれを学んでまねるというのが教育です。これは、戦後の高度成長期に必要な、一律の規格に合った人間を育てる上では効果的な方法だったのかもしれませんが。しかし、これからの時代は、自分の持っている力を最大限に出し、自分で問題を発見して解決していくことができる人間を育てる方向にシフトしなければいけません。そのためには、上から下に知識を押し付けるというのではなくて、一人一人に考えさせる、自主性を重んじるといった人間の育て方をするべきで、そういうことができる新しい人間開発術を持った「ファシリテーター」は、日本にもとても必要だと感じました。

内田:「ファシリテーター」とは、どのような教育背景を持っていらっしゃる方なのでしょうか。

近藤:講演していたイギリス人は、バイオリニストでした。彼は、絶対にお説教とかレクチャーをしないで、一人一人の子どもの能力を引き出すのだそうですが、子どもたちをインプレスするには、バイオリンが上手くなければならないと言っていました。「ファシリテーター」は、何かひとつの専門の分野…音楽でも美術でも、生物学でもいいのでしょうが…プロフェッショナルな人が、それをベースに、人間の能力を開発したり、潜在能力を引き出すテクニックを学んで、子どもたちに働きかけるということです。ファシリテーター専門の学部を作っても育成できるものではないというのが彼の持論でした。

内田:確かに、日本の教育は、技術的に高いものを作るというようなところは、効率に、合理的にやってきたけれど、これからは、もっと、新しいものを生み出す力をつけるための教育を考えていかなければいけませんね。教師になったら、子どもたちのポテンシャルを引き出す「ファシリテーター」ができるよう



な人材を育てるため、筑波大学でも、お手伝いしたいと思います。

近藤:ぜひお願いします。幅広い学部をお持ちですから。特に芸術の分野があるので、大いに期待しています。どの専門分野でもいいのですが、特に芸術は、固定観念にとらわれないで、子どもたちが持っているさまざまな才能を見出し、発展させ、自信と夢を与えて行く力を持っています。それに、算数のように、明確な答えがあるわけではないからこそ、議論したり、一緒に作品を制作したり、演奏したりすることで、コミュニケーション力を高めることができます。ですから、私は、芸術で人間の基本を育てていくという仕組みを社会全体で作っていただければいいと考えています。それに、いい「ファシリテーター」になれるように能力を磨くことは、アーティストとしても大事なことでないでしょうか。単に技術をマスターするというのではなく、コミュニケーションを通して、人間というものを学ぶことが、本来の人間として持っているものを高め、それが、その人が作る芸術にもにじみ出てくると思うんですね。

内田:長官のお話を伺って、文化・芸術について、なにか悟りのようなものが開けたような気がします。大学は、「ファシリテーター」を育てる一方で、「ファシリテーター」として、学生のポテンシャルを引き出し、顕在化することも課題だと感じました。

文化・芸術の持つ 国際的役割

内田:私どもの芸術専門学群からは、日本の文化を担う、さまざまな人たちを輩出しております。長官のデスクの上にピカチュウのぬいぐるみが置いてありますが、世界に向けてポケモンマネージメントをしているのは、うちの卒業生です。

近藤:そうでしたか。

内田:ポケモンなど、日本のポップカルチャーは、世界的に高く評価されています。中国の若者たちは、トップダウンで与えられる「戦争を反省しない、だめな日本」というイメージと、「アニメとかコスプレ文化を作り上げた素晴らしい日本」というイメージのダブルスタンダードで日本を見ていますけれども。

近藤:政治的な問題で国家間の関係が悪化しても、人々が互いの文化に共感を持つことによって、相互理解が進みます。こうした国際的な役割も、文化・芸術の大きな力です。今、日本の文化として、ポップカルチャーと呼ばれる漫画、アニメ、コスプレなどが世界に注目されていますが、それらが世界から支持されているのは、受け継がれてきた日本人独特の美意識や自然感、緻密な伝統の技が、わかりやすい形で表現されているからなのだと思います。北米やヨーロッパなどでは、源氏物語などの古典的なものに対しても関心が高まっています。

内田：日本人の文化の根幹にある、自然感などが、世界に受け入れられているということですね。日本人の文化の根幹に大きな影響を及ぼしているものとしては、日本独特の文字もあるのではないのでしょうか。私は、文化庁文化審議会委員になって8年ほどになります。国語審議会委員として、常用漢字の見直しにも携わりましたが、その委員会に出ていた時に、日本が漢字仮名交じり文字を創り出したのはすごかったなあと、しばしば感動しました。視覚的效果と音楽的效果を持った、平仮名が音を伝えて、漢字が概念や意味を、視覚的效果として与える、素晴らしい文化です。

近藤：漢字仮名交じりというのは、日本人の物の考え方に、ものすごくいい影響を与えていると思います。

内田：入門期は平仮名でいきますから、書くのはとても楽。だから、読書不信児童というのは全然いませんけれど、アメリカなどには、アルファベットが読めない子どもがたくさんいます。日本語は、音と、音節文字ですから、それに助けられて、簡単に読むことができます。そして、そこに、概念を運ぶ漢字が入ってきます。「リテラシー」というのは、ギリシア語やラテン語を読めるというような「教養」という意味だったのが、学校制度が入ってから、「識字」とか「読み書き能力」と限定的になりましたけれど、本来、文字の持つ力、これはすごく大きいんじゃないかって思います。そして、その文字を芸術的に表現する「書」も素晴らしい日本文化

ですよね。先ほど、文科省の庁舎で、陸前高田の石巻の子どもたちが書いた「心の叫び」という書の展示会を観て参りました。父親を津波で流されてしまった9歳の子が、「父」という素晴らしい力強い字を書いていた、8歳の子が「涙は笑顔でかわく」と書いていたり…。習字の美しさとは違う、魂の叫びが書に表れているなあと感動いたしました。長官は、「文化・芸術は、一人一人に生きる力を与える」と仰っておられますが、書を書いた子どもたちも、書を鑑賞した私たちも、まさに、生きる力を与えられたと思いました。

芸術を何か1つ身に付けて、海外から日本を見てほしい

内田：最後に、本学の学生や若い世代に、お言葉をいただけないでしょうか。

近藤：文化芸術の持つ、いろいろな力を出し切っていないというのが今の日本の現状です。これから日本を新しく再生させていく上で、いろいろな新しい制度、政策を変えて行くことは必要ですが、同時に、そういう政策や制度を運用するのは所詮人間ですから、国民が、前向きの姿勢を持ち、潜在能力を十分に発揮して、自分自身のビジョンを持ちながら、他の人と意見の調整や協力をして、そのビジョンの達成を前向きに目指していくことが大事だと思います。そうやって初めて、いい政策、いい制度が生きてくるわけです。それじゃ、何がそういう力を与えてくれるか、というと、やはりこの文化芸術の持

つ力ということになります。ですから、若い人には、どの分野でもいいので、何か芸術を身につけてほしいということです。それによって、基本的な人間力というようなものが備わると思います。そして、社会全体として…国も、自治体も、大学も…協力して、文化・芸術の力が社会に根付くように努力してもらいたいのです。また、それと同時に、若い人には、いろいろなことを経験してほしいですね。特に、日本国外に出て、外からから日本を見つめてほしい。日本の文化や日本人の長所、欠点をはっきりとわかりますから。今の日本の組織は、役所であれ、政党であれ、企業であれ、現状維持というか、組織防衛、自己防衛という狭い論理の方に閉じ込められている傾向があると思うんですよね。若い人たちには、そこを飛び出してもらいたい。自分の属している組織の狭い組織防衛の論理を打破って、将来のために、社会のために、国のために、どうしたらいいのかというのを考えて、同じ考えを持っている人と連携していく…そういうコミュニケーション能力、固定観念にとらわれない判断力を身につけてほしいと願っています。社会全体に文化・芸術の力が根付き、若い人たちが身につけた能力を発揮すれば、日本の将来はすごく明るいと思います。

内田：今日は、本当にいろいろと示唆的なお話を伺わせていただきまして、ありがとうございました。豊かな時間を過ごさせていただきました。

近藤：こちらこそありがとうございました。

対談を終えて

近藤長官との対談で一番印象に残ったのは「大学はファシリテーターたれ!」という長官のお言葉である。昨今の大学生の学習意欲の低さは、学生だけの責任ではない。長官のこの言葉は、“大学は学生のモチベーションを高める教育、知的な挑戦と刺激に満ちた教育、学生のポテンシャルを引き出す教育が提供されるべきだ”

というメッセージとして私の心に深く響いた。本学は、学生にエネルギーを与えエンパワーする場となること、何よりも学生が学ぶ意欲をもち、一人一人の潜在能力を開花し、それぞれの生き方を見つけて巣立っていく「故郷」、そして、「いつでも帰れる実家」になることが必要だと強く感じた次第である。

内田 伸子



法科大学院

1 社会人に特化した本学法科大学院

法科大学院は法曹に必要な学識や能力を育てることを目的とした専門職大学院です。

本学では、1990年から東京キャンパスにある社会人向けの経営・政策科学研究科（現在のビジネス科学研究科）に企業法学専攻を設置していましたが、社会人の中にも法曹資格を取得したいという声が大きいくなどをふまえ、2005年4月、ビジネス科学研究科法曹専攻（専門職学位課程）として東京秋葉原に法科大学院を設置し、2011年9月からは東京キャンパス文京校舎において開講しています。

そのような経緯があるため、サラリーマンや医師、会計士、弁理士、税理士、公務員といった職業に就きながら法科大学院に通っている学生が多いのです。夜間のみの開講は、全国でも本学だけです。「公平性・開放性・多様性」という法科大学院制度の理念から、昼間働かざるを得ない社会人にも学ぶ機会を与えることは法曹を養成する

者の責務といえます。

「法曹の仕事は話を聞くところから始まります。たとえば、弁護士であれば、大学を卒業してすぐに仕事をするよりも、社会人経験を積んでいるが故に、依頼者の話を聞くときに人としての器が違ってくのではないかと思います。学校で学んだこと以外の諸々の要素が意味を持ってくるのです」（藤村和夫法曹専攻長）。

法科大学院に入学するには、法科大学院適性試験と、各法科大学院の個別試験を受験する必要があります。個別試験は、法学既修者コース（2年制）と未修者コース（3年制）の2種類があり、本学の場合は、全員が未修者という制度を採っています。

また、社会人学生を支援する強力な体制の一つとしてチューター制度があります。現在のところ、公法系2人、民事系13人、刑事系5人のいずれも現役の弁護士がチューターを務めており、入門的な講義を行うほか、授業の復習

やゼミナールを行ない、学生の個別相談にも応じています。

「基礎学習の部分では暗記が必要になりますが、それだけでなく、これらの学習によって考える力を身につけるのです。その意味では、チューターの人たちにも努力してもらっています。カルチャーセンターで学ぶような気持ちではいられません。高い水準を維持し、なおかつ合格率を高めることが評価につながります」（大塚章男教授）。

ただし、合格しても、現在の法曹界ではイメージほどの高収入が得られるわけではありません。仮に弁護士になり、法律事務所に入ったとしても、実際には自営業と同じ働き方をしている弁護士も少なくありません。そのため、在学中に借り入れていた授業料の返済を考えると、容易なことではありません。それでも仕事を辞めて勉学に励む学生もいます。そのため、奨学金制度や教育ローンを導入しています。

2 法科大学院の意義と課題

法科大学院制度は、アメリカの「ロー・スクール」をモデルにしています。従来の司法試験制度のもとで指摘されていた弊害の一つが司法試験予備校の存在でした。受験技術を優先した学習の問題点が指摘され、テクニック中心の受験による合格者の増加が質的な低下につながるのではないかと、この危惧があったのです。

そのため、国が法科大学院を設置する際には、受験に特化した指導を無く

すこととしました。試験に合格するだけでなく、受験指導とは切り離れた、真の意味でのリーガルマインドを醸成することが大きな課題なのです。

しかし、現在の法科大学院構想は危機に瀕しているともいえます。「司法制度改革推進計画」(2002年3月閣議決定)では、新司法試験の合格者を2010年までに年間3000人にするとしていました。合格率は受験生の7~8割に相当するというものです(5年間で3

回受験した累積合格率)。

しかし、今年の合格者も2000人を超える程度にとどまっています。合格率も2006年の48.25%から徐々に落ち込み、2011年は23.54%と伸び悩んでいます。本年は少し上がりましたが、それでも25%です。既修者と未修者との間の学力差も出てきており、2011年は既修者の合格率が35.4%、未修者のそれは16.2%でした。未修者には大変厳しい状況といえます。

3 本学法科大学院生の健闘

その中でも、全員が未修者である本学では徐々に成果が出てきています。過去4年間における受験者のうちの合格者は、2008年は5人/26人中(合格率19.2%)、2009年は3人/34人中(同8.8%)、2010年は11人/43人中(同25.6%)、2011年は4人/55人中(同7.3%)でしたが、本年は9人/63人中(同14.3%)となっています。

「法学未修者が既修者に追いつくのは簡単なことではありません。そのためには学習時間を確保しなければなりません。しかし、働きながらでは、どうしても勉強時間が少なく、時間をつくる

には工夫が必要です。現在勤めている会社も、必ずしも応援してくれているとは限りませんし、結婚していると、日曜日は家族と過ごす時間も必要です。で、社会人の学生さんたちは、睡眠時間を削るなど、血のにじむような努力をして勉強しています」(大塚教授)。

「現在までのところ、本法科大学院の実績は法科大学院全体の中では決して優れたものとはいえないかもしれませんが、2010年の合格実績は、夜間のみ開校の社会人向け法科大学院としての成果が見えて来た結果ともいえます。法科大学院の成績優秀

者と司法試験合格者とが見事なほど一致したのです。本法科大学院の教育方針が決して間違いではないことを示しているといえます。本法科大学院は、社会人が働きながら司法試験を目指すための最も優れた場の一つとなっています。また、年に一度は全修了生に声をかけて『修了生懇談会』も開催しており、修了してからのネットワークをも通して、本法科大学院には、今後大きく発展していく力が潜在していると確信しています」と藤村専攻長は熱く語っています。

Message

卒業生からのメッセージ

私は、ビジネス科学研究科法曹専攻の一期生として学ぶ機会を頂戴し、二度目の受験で司法試験に合格いたしました。知的財産法以外は無知の私に、仕事をしながら学ぶ機会を与えてくださり、また、夜間独自の濃密な授業を先生方より賜ったことを、心より感謝申し上げます。

本学では、法曹実務の実際や、実務上・学術上の問題点を深く教えていただき、実務家に必要な「初見の問題に対応する能力」を伸ばしていただきました。司法試験では、さらに「短時間で基本事項を答案用紙に書く瞬発力」も求められます。そのため、授業時間(および授業の予復習時間)以外に、時間を作ってこの「書く瞬発力」を伸ばすための訓練を積みなければなりません。社会人

はもともと勉強可能時間が圧倒的に少ないので(頑張っても昼間の学生の1/3程度と思われます)、こうした訓練のサポート体制について、より一層のご高配を賜れば幸いです。例えば、自主ゼミの部屋を自由に使える環境をお願いしたいです。また、学習時間に余裕のできた修了生への手厚いサポートも必須だと思います。私の修了後、チューターゼミ制度が拡充されたことを知りましたが、是非さらなる充実をお願いしたいと思います。

多様なキャリアを持つ法曹人等の確保という新制度の理念を支える学び舎として、母校がさらに発展することを、心より願っております(当然ではございますが、本記事は、私個人の見解であって、所属する組織とは関係ありません)。



べっき かずお
戸次 一夫さん

慶應義塾大学理工学研究科
電気工学専攻1996年修了
TOTO株式会社1996年~1997年
特許庁1998年~現在

慶應工学会賞(学科首席)1994年、国家一種試験合格1997年、弁理士試験合格2000年、司法試験合格2011年

聴

万物に質量を与える素粒子です



原 和彦 准教授(数理物質系)

1957年 愛知県生まれ
1980年 本学第一学群 自然科学類 卒業
1985年 本学物理学研究科物理学博士課程 修了
1985年～ ヘルン大学高エネルギー研究所 助手
1989年～ 本学物理学系 助手、講師を経て
2011年～ 現職

性」で決まります。光子はヒッグス粒子との相性が悪いので無視されます。だから光子は宇宙開闢(かいびやく)以来質量ゼロのまま、光速で動けるのです。では、それほど重要な役目を担っているヒッグス粒子の正体はなぜこれまで不明だったのでしょうか。実は、標準モデルではヒッグス粒子の質量を予想できません。ただ、様々な実験結果からおおよその質量範囲がわかっており、そのような重い粒子を真空からたたき出すには、従来の加速器では能力不足であることがわかってきました。高エネルギーに加速した陽子どうしを衝突させれば、陽子を構成する素粒子どうしの衝突・融合が起こり、そこからヒッグス粒子が飛び出します。その頻度は予想できませんでした。ただし、飛び出した粒子が見えるわ

けではありません。発生するエネルギーを計測し、多数のコンピュータを用いた計算によってその存在を突き止められる確信が得られたのです。

ヒッグス粒子探しが始まった1980年代後半に利用できた最大の加速器は、シカゴ郊外のフェルミ国立加速器研究所にあるテバトロン加速器でした。ここでは2005年にヒッグス粒子の質量の上限が決定されました。しかしそれ以上正確にヒッグス粒子の質量を割り出すには、加速器のエネルギーが不足していました。

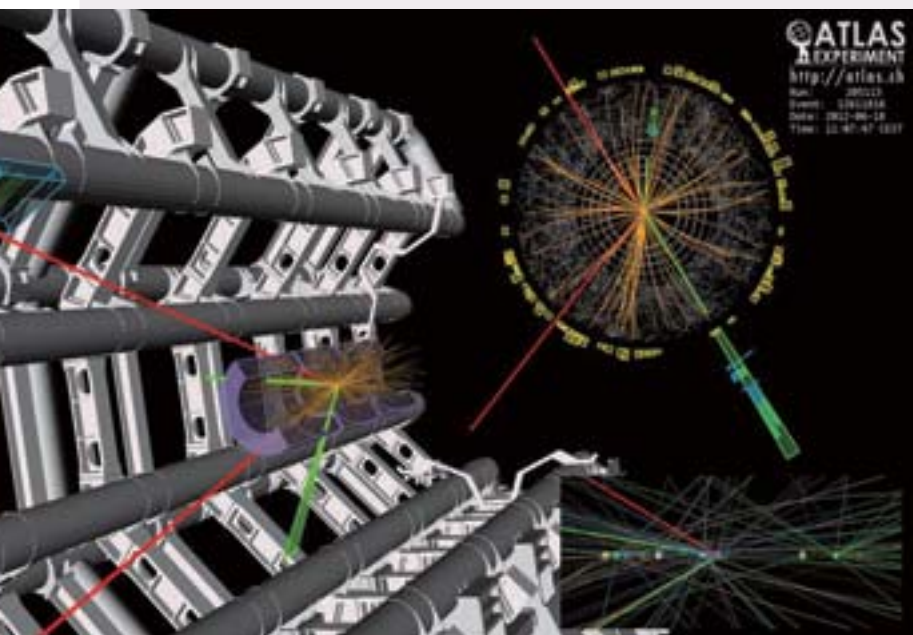
そこで登場したのがCERNの大型ハドロン衝突型加速器(LHC)です。LHCでは2011年から本格的な実験が可能となり、今回の発表につながりました。LHCはジュネーブ郊外のCERN研究所の地下に設置された世界最大、周長27kmの粒子加速器です。ほぼ山手線に匹敵する規模です。陽子を4TeV(4兆電子ボルト)光速の約99.9999997%に加速して正面衝突させられます。

光速に近いスピードに加速した陽子どうしの衝突により、ヒッグス粒子が出現しますが、すぐに崩壊して別の粒子に変わります。その反応を巨大な検出器で観測するのです。2つの観測装置のうち1つが、ATLASと呼ばれる巨大な検出装置です(図2)。

研究チームは実験とデータの解析を進め、発見した新粒子が「標準モデルのヒッグス粒子」と一致するものなのかについての結論を年内には得る見込みです。しかしそれですべてが解決するわけではありません。

ヒッグス粒子は今回発見されるはずの1種類だけなのか?やがて重力の謎もこの発見をきっかけに解決するのか?

LHCは来年1年をかけて改修され、さらなるパワーアップを果たす予定だそうです。そのとき、どのような謎が解明されるのでしょうか。新たな謎解きは、まだ始まったばかりなのです。



(図2) ATLASのイメージ図。ATLAS Experiment©2012CERN

「ヒッグス粒子」って何？

今年の7月4日、世界中のメディアがスイスのジュネーブ郊外にある研究所に注目しました。

「大発見」があった、万物に質量を与えた「ヒッグス粒子」なるものが発見されたいというのです。

「ヒッグス粒子」とはいったい何なのか。

今回は、本学金信弘教授と原和彦准教授による一般公開講演会

「世紀の大ニュース『ヒッグス粒子』って何？」より、ヒッグス粒子の正体に迫ります。

世紀の大ニュース!?

記者会見の当日、会見場となった欧州合同原子核研究機構(CERN)の大ホールからは、会見の様子がウェブ中継で世界中に流されました。会場を埋めた研究者、ウェブ中継を見つめていた日本の研究者は一同満面の笑みで、その成果発表に大満足の様子です。しかし、その映像を流したテレビニュースや翌日の新聞記事を見た一般人は、なんだか狐につままれた感じでした。なにしろ、「ヒッグス粒子発見」という報告ではなかったからです。「ヒッグスとおぼしき新粒子である確率が99・99995(99・9999998%で確認された)」というのです。

国際チームに筑波大学も参加

今回、スイスで発表された研究成果の1つ、ATLASチームには世界38カ国3000人以上の研究者と大学院生が参加しています。本学からも数理物質系の金信弘教授と原和彦准教授らの研究チーム、卒業生などが参加しています。

9月1日には、両先生による一般公開講演会「世紀の大ニュース『ヒッグス粒子』って何？」が本学春日講堂で開催されました。両先生の講演内容と補足説明から、ヒッグス粒子についての疑問にお答えします。

万物の質量の素？

ヒッグス粒子とは、万物に質量を与える素粒子なのだそう。そもそもこの世を構成している基本物質が素粒子です。

素粒子というと、電子、陽子、中性子、それと湯川秀樹博士がその存在を予想した中間子などといった名前しか思い浮かばないのは、ウン十年以上前に物理ファンを卒業した証拠。素粒子をめぐる研究はどんどん進み、1970年以降に固まった、その名も「標準モデル」と呼ばれる理論では、素粒子は、物質を形づくる基本粒子(物質粒子)と力を媒介する基本粒子(力を伝える粒子)の2つに大別されています。物質粒子は6種類のクォークと、電子の仲間とニュートリノの仲間からなる6種類のレプトンの計12種類。力を伝える粒子は、光子(電磁気力)、グルーオン(強い力)、WやZという名前のウィークボソン(弱い力)です(図1)。

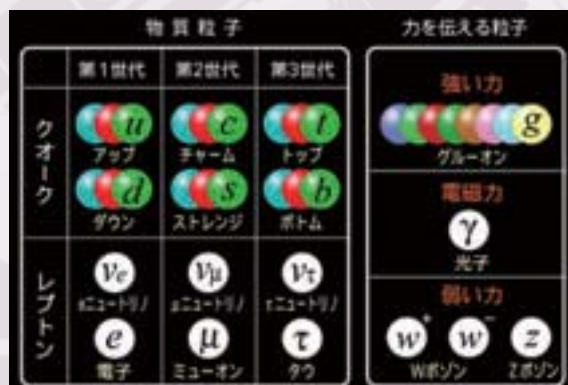
以上が基本の素粒子で、たとえば陽子は、3種類のクォーク、クォークを結ぶグルーオン、グルーオンが一時的に変化したクォークと反クォークなどで構成されています。

これに加えて、基本粒子に質量を与える素粒子としてその存在が想定されたのが今回話題のヒッグス粒子です。これまでに練り上げられた理論と実験データを総合すると、ビッグバンによって宇宙が

誕生した直後に存在したすべての素粒子には、質量がありませんでした。空間は「真空」状態で、粒子はみな、いかなる抵抗も受けずに光速で運動していました。しかし宇宙は膨張するとともに冷えていき、たとえば水蒸気が水になるように、真空中にヒッグス粒子が充満していききました。

ここで私たちが混乱させるのが、粒子すなわち粒つぶが充満するというイメージです。それは言葉に引きずられているから。そうではなく、

ヒッグス粒子が充満した「ヒッグス場」が形成されていると考えるのだそうです。光子が電磁場の中を伝わる波のような存在であることを思い起こしてください。ヒッグス粒子で埋め尽くされた「真空」中を他の素粒子が動くとき、ヒッグス粒子の抵抗を受けます。そのときの抵抗の大きさが「質量」で、それは素粒子とヒッグス粒子との「相



(図1) 素粒子と素粒子間の力。標準モデルによる素粒子の分類。

金信弘 教授 (数理物質系)

1951年 大阪府生まれ
1975年 東京大学 理学部 物理学専攻 卒業
1980年 東京大学大学院 理学系研究科 物理学専攻 博士課程 修了
1980年～ 本学 準研究員、講師、助教授を経て
1996年～ 現職

17 学内組織紹介

産学リエゾン共同 研究センター（ILC）

産学リエゾン共同研究センター（ILC）は、産学官のリエゾン活動の拠点として、2002年に設置されました。同センターは、大学の研究成果を産業界に移転し、日本の産業を発展させ、ひいては社会貢献の役割を果たしていくことを目的として、共同研究や大学発のベンチャー支援など多様な活動を行っています。

内山 洋司 センター長



つくばキャンパスは、東西約1km、南北約4kmの自然に恵まれた広大なキャンパスで、東京ディズニーランドと東京ディズニーシーを合わせた面積の約2.4倍の広さを誇ります。広いキャンパスには様々な教育・研究組織がありますが、全てを知ることはなかなかできません。その組織や施設が、どのような目的で設置され、どのようなことをしているのかなど、各号で紹介していきます。



Introduce

産学連携本部の中核的な活動拠点

産学リエゾン共同研究センターは、国立大学における62番目、最後の共同研究センターとして設置され、2004年に、本部棟の北西部に現在の地上3階、延床面積3000㎡の建物が完成しました。第3エリアにあるベンチャー・ビジネス・ラボラトリー棟（VBL）と共に、二つの施設から構成されています。

「リエゾン」というのは、組織と組織の連携・連絡という意味ですが、同センターの設置目的は、企業等との共同研究の促進、大学の研究成果を産業界に移転するためのキャンパス・インキュベーションの推進、それに伴うリエゾン活動の活発化という三つの大きな目的があります。

現在進められている産学連携推進プロジェクトは、2006年度当初の「共同研

究」「起業支援」「ベンチャー支援」の三つに、2010年度以降は「知的財産活用」「共同研究立ち上げ支援」「アントレプレナーシップ教育及び知財教育支援」の三つが加わり、全体で六つのプロジェクトに分けて推進されています。

本年4月に就任した内山洋司センター長（システム情報系教授）は、「これまで本センターは、全学組織である産学連携本部の中核的な活動拠点として、産業界と本学の総合窓口という機能を担ってきました。そのためのハード面では、センター施設の貸与、ソフト面では、産学連携プロジェクトの企画・立案、それに伴う規定等の整備、外部資金の獲得、知的財産権や成果の発表に関わる課題や交渉、起業相談、科学技術相談、企業からの問い合わせへの対応、利益相反のマネジメントなど幅広い対応

を行っています。さらに、最近の新しい機能としては、経済産業省等の国の機関から、武器等に転用可能な技術が安全保障上問題のある国家やテロリスト等の手にわたることを防止するための策を講ずることが求められており、本学では他大学に先駆けてその規定などを整備し、ウェブページ等で公開、広報するという活動も行なっています」と語っています。

右片上がりに伸びてきた共同研究

産学連携プロジェクトは、現在の経済状況のなかにあって、着実にその成果を上げてきています。

「2004年、本センターの設立以降、本学の共同研究・学術指導の件数は、初年度の115件から2007年度には335件と右片上がりに伸びてきました。2008

産学連携推進プロジェクトの種類と内容

	プロジェクトの種類	内容	期間	研究費	募集時期 (締切予定)	ILC/VBLの利用※1
1	共同研究プロジェクト	本学の技術シーズの移転を目的とした研究開発、又は企業の技術ニーズにも基づく研究開発であって、企業との共同研究又は企業からの受託研究を対象とする。	3年以内	100万～300万円/年程度	毎年2月	優先的に利用可、無償
2	創業支援プロジェクト	本学の技術シーズをもとにベンチャーを設立するための研究であって、本学の教員又は学生等が研究を行うものを対象とする。	3年以内	100万～300万円/年程度	毎年2月	優先的に利用可、無償
3	ベンチャー支援プロジェクト	本学の技術シーズをもとに設立されたベンチャー企業あるいは本学の教員又は学生等が設立したベンチャー企業が行う本学教員との共同研究又は本学教員の技術指導を受けて行う研究開発を対象とする。	3年以内	なし	毎年2月	優先的に利用可、 廉価による有償使用※2
4	知的財産活用プロジェクト	本学教員が創出し、原則として本学が単独で継承した知的財産を対象とし、その活用のため発明研究者に対して支援を行う。	1年	100万円以下	毎年2月、5月、8月	利用可、無償
5	共同研究立上げ支援プロジェクト	主に若手社員等による中小企業等との共同研究を促進するため、共同研究費の支援を行う。	2年以内	企業負担の共同研究費と同額を上限として100万円以下 (申請年度のみ)	毎年2月、5月、8月	利用可、無償
6	アントレプレナーシップ教育 及び知財教育支援プロジェクト	起業家精神を有する人材育成や知的財産関連の知識習得などを旨とする授業やセミナー・公開講座等が対象となる。	3年以内	50万円/年程度	毎年2月	利用可、無償

※1 VBL：ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー ※2 施設の使用料が無償となる場合があるが(直近の会計年度の経常利益が100万円未満の場合)、光熱水費は有償となる。



年度にはリーマンショックの影響で295件となり、金額的にはやや落ちましたが、その後件数は横ばいになっています。最近では、企業も簡単にはお金を出しにくい経済環境になり、企業の費用負担を少なくして、共同研究とは違う、様々な研究を企業に対する学術指導という形でプロジェクト化し、企業から大学に一定の指導料を収めていただき、それを先生方の研究に使ってもらうことを進めています。この活動については、今後経済が好転してくると、本格的な共同研究に繋がっていくということを期待しています。また大学発ベンチャーの件数も、累積で2011年度は88件になっています。こちらも2004年以降右片上がりに増えてきています。これは他大学に比べてもきわめて多い件数になっています」

産学連携の人材教育・育成

ILCは、産学連携本部と連携しており、内山センター長もその本部長代理という立場で、本部と一体となった技術移転の推進体制の強化をはかっています。

今後のILCの目標について内山センター長は「これまでの活動に加えて、産学連携に関わる人材の育成や教育活動の充実、さらに多様な連携相手とのネットワークの強化ということも求められています。そういった教育面も強化し、全学を対象とした学内共同教育研究施設としてのサービスの充実を図り、わが国を代表するリサーチ・ユニバーシティ(研究大学)にふさわしい産学連携の成果を産み出していきたいと思っています。旧帝大を含めたRU11の他大学の水準を維持し、あるいはその水準を超える成果

を目指して活動していきます。学内の研究シーズの発掘には、特に若手教員へのアプローチを強化し、それぞれ分野別のマネージャーを配置して、これはという若手研究者にアプローチし、一緒にその研究を発展させる努力も行なっています」

連携の分野は、時代とともに変化してきて、以前は情報通信の分野が主でしたが、最近は医学系、特に薬学関係、数理物質系が多くなっているといえます。

毎年『最新研究・技術成果シーズ集』という冊子を発行。企業などに配布し、本学の研究者がどのような研究を行っているのかを写真や図を入れて解説しています。これを見て企業から問合せがあれば、ILCがその仲介を担います。この冊子に掲載する情報を今後更に強化し、企業と大学の研究を結び付け、未来に向けてILCはその活動を推進しています。

附属学校の 名物先生 登場!

7

本学には、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県に11校の附属学校があり、いずれもそれぞれの分野でわが国の教育をリードしています。

そこには、全国でも有名な先生たちが大勢います。

このコーナーでは、各学校の名物先生を順次紹介しています。

今回の先生

筑波大学附属坂戸高等学校

たけ うち よし はる
竹内義晴 教諭

東京都生まれ、埼玉県川越育ち
埼玉県立高等学校教諭(3校)を経て、2000年より附属坂戸高等学校教諭。本学非常勤講師。本学大学院非常勤講師。
主な専門分野:社会科教育・社会思想史・演劇教育(学校教育と演劇の融合)
埼玉県高等学校演劇研究会理事
【好きな映画監督】デヴィッド・リンチ 【思想家】樽のディオゲネス 【本】怒りの葡萄 【画家】ダリ 【愛車】オレンジのフィアット プント



コミュニケーション・スキル 育成の「パフォコミ」

今回、名物先生を紹介するために訪れたのは、埼玉県坂戸市にある附属坂戸高等学校です。生徒たちが「筑坂」と呼ぶ同校では、総合学科を「学力と社会人基礎力を総合的に身につける教育システム」とし、コミュニケーション・スキルの育成を重視し、1年次からカリ

キュラムに積極的に取り入れています。

竹内義晴教諭(公民・福祉)が受けもつ2年生の選択科目「パフォーマンス・コミュニケーション」(以下、パフォコミ)も、そうしたコミュニケーション・スキルの育成に関する授業の一つ。以前は、自由選択科目だった「演劇演習」の授業を、2003年度から「パフォコミ」としてリニューアルしました。

竹内教諭は演劇部の顧問も務めています。以前赴任していた県立高校で演劇部の顧問を務めて以来、その教育効果に関心を持ち、演劇を通じて生徒のコミュニケーション・スキルが向上するよう顧問として指導しています。

「赴任2校目の学校で、部活の顧問をやろうと考えた時に、運動部は嫌だったんですよ(笑)。だったら、やり手のない演劇部をやれと言われて……。高校時代から映画は好きでしたが、演劇には興味なかったんですよ。でも、実際に顧問になってみたらハマっちゃって!

もちろん、それから芝居を観に行くのも好きになりましたよ」





パフォーマンスによって 実践的に学ぶ

この日の授業は“夏休みの出来事を、言葉を使わず表現する”というもの。演劇教室に集まった生徒たちは、4人1組のグループに分かれ、それぞれ出し合った夏休みの思い出をサイレント劇にまとめ、今日は、それを舞台上で披露する日。楽しかった出来事やハプニングなどを、身体の動作だけで表現し、観客となっている他の生徒たちに伝えます。

あるグループは、夏休みにお祭りに行った生徒の体験を表現。金魚すくいや、射的をした思い出をサイレント劇で見せ、最後には4人が列になって順番にジャンプし、花火の描写をパフォーマンスしました。

各グループの発表が終わるたびに、生徒たちがパフォーマンスの解説をし、竹内教諭や、一緒に授業を受けもつ平田佳弘主幹教諭(保健体育)からの講評を得ます。竹内教諭が「あれはイルカのつもりだったのか? 分かった人いるか?」と観客の生徒に向かって言うと、「わかりませーん!」と生徒たちから声がかかります。「何でそれが伝わらなかったのか考えてみよう」とアドバイスがあり、生徒たちは「はい」と元気に答えました。

「今日の授業では、非言語表現を学んでもらいました。言葉以外の表現力

ですね。これから生徒たちの出会いの中で、言葉では会話できない場合もあるかも知れない。そういう時にも役立つでしょう」

「パフォコミ」を履修する生徒の多くは、福祉、保育、医療関連の学校に進学します。生徒たちは、今は授業を受ける立場ですが、いずれ教壇に立ったり、患者などと接する立場になったりします。そうした生徒が、自己をどう表現するか、どう他者と関わりをつくるか、という点を模索しつつコミュニケーション・スキルの向上を目指しています。

例えば、年度の初期に行なわれる“支える”という授業では、1人の生徒が椅子の上から仰向けの状態で倒れてくるのを、他の生徒が支えます。信頼し合うことがなければ、恐ろしくて倒れることができません。また、目隠しをして、前の人の肩を持ちながら行列になって歩くアイマスク体験も行ないます。こうした授業を通して「信頼」というものを実体験で学んでいくのです。

「演劇部でもパフォコミの授業でも、生徒一人一人に役割があるんです。一人でも欠けたらそのグループが成り立たなくなってしまう。お互いの「信頼」を礎に、役割を意識させられるようにし実践しています」

教員こそコミュニケーション が大切

「最初は、生徒たちは何も意識せず、楽しんで授業に取り組んでいます。演技やパフォーマンスが中心ですから、そりゃ楽しいですよ(笑)。生徒の意識が変わってくるのは、3学期になってから。この授業が実践で役立つという実感を持てるようになっていきます」

「筑坂」では、2年次3学期から3年次3学期にかけて、すべての生徒に卒業研究が課せられるのですが、そのプレゼンテーションなどに、パフォコミで身につけたコミュニケーション・スキルが役立ち、その重要性を実感していきます。

生徒の評価は、授業ごとに生徒が提出する「振り返り」レポートを、竹内教諭と平田佳弘主幹教諭の2人が確認し、授業に向けた意欲や努力によって評価しています。また、授業中のパフォーマンスでの表現力なども加味されています。

竹内教諭は、生徒が相手に対して「この気持ちを伝えたい」「この気持ちを受け取ります」という気持ちを素直に表現できるよう、教員自らが生徒たちに対する関わり方を意識しなくてはならないと言います。教員こそコミュニケーション・スキルを必要とされる職種だからです。

未来の保育士さんや看護師さんを目指す「筑坂」の生徒たちは、こうした実践教育の中で「楽しみ」ながら学んでいます。



平田佳弘 主幹教諭

「パフォコミ」を竹内先生と一緒に指導する平田佳弘主幹教諭のコメント

パフォコミでは、将来、看護士や保育士、あるいは福祉系の施設で働くことを望んで進学を考えている生徒が履修しています。仕事として人間と関わりをつくっていく職場です。例えば、生徒の出欠確認を生徒にやってもらっています。一人の生徒に先生役をやらせたり、残りの生徒は、今日は幼稚園児として設定して、声かけを含めて出欠を確認します。その日によって、小学生だったり、不良っぽい中学生だった

り、お年寄りだったり、設定を変えて出欠確認をしています。

パフォコミの授業は、グループに分かれてチームを組めます。誰か一人がサボったり欠けてしまっても、成り立たなくなってしまう。部活のノリに近いんですね。「あなたは、この授業に必要なんだ」という生徒の存在意義を実感させ、チームでつくった作品を発表するという達成感を感じてもらいながら、授業を進めています。

男	子			
バ	ス	ケ	ッ	ト
ボ	ー	ル	部	

多彩な戦術を武器に、 ”団結力”で勝利を掴む!



創部85年の男子バスケットボール部は、全日本大学バスケットボール選手権(インカレ)の第1回大会から唯一連続出場している名門チーム。現在部員数は41人で、A・B2チームに分かれて練習や試合を行っている。率いるのは、本学を卒業後、東芝チームで活躍、全日本監督の経験もある吉田健司監督だ。

吉田監督は全日本レベルの戦術を導入。本学チームは、他大学のチームに比べてフォーメーションの数が多く、戦術メインのプレーが特長となっている。「就任してすぐ、全日本の戦術を話してみたら、筑波大の子は賢くて、すぐに理解し、プレーできたんです。以来、できるだけ多くの戦術を指導するようにしています。卒業後、選手の約半数が教員になるので、戦術を覚えていい指導者になって欲しい

という思いもあります」と吉田監督。本年度のチームについては、「一体感を持って、総合力で戦っていくチーム」と評する。

上下関係なく 指摘し合えるチームづくり

星野拓海主将(体育専門学群4年)は、選手間のコミュニケーション力をアップさせ、チームが団結して戦うことが強さにつながると、という信念のもと、話し合いを重ねながらチーム作りをしてきた。下級生から上級生に対しては意見が言いにくいものだが、反省会などでチーム全員から強制的に意見を言わせることを繰り返しているうちに、上下関係なく、試合中も自由に指摘し合うようになったという。「去年までは、試合中に劣勢になると、そのままズルズル負けてしまうことが多かったのですが、この

春より秋の大会の成績が悪いと気を引き締める。秋によりいい結果を出し、インカレ優勝を狙うには、夏休みの練習が鍵になると、例年より練習時間を増やし、内容も厳しくした。「オフェンス(攻撃)は点を取れるが、ディフェンス(守備)での失点が多いのが課題」と、吉田監督に指摘されるチーム。課題克服のため、夏休み前半の練習では、走り込みとディフェンス練習に徹底して取り組んだ。後半は、戦術のプレーに磨きをかけ、対外試合を重ねて、秋の関東大学リーグ戦に臨む。

“地域密着型イベント” 筑波大学ホームゲーム開催

リーグ戦は、9月1日～10月28日までの毎週土日に行われる。10月6、7日には、つくばカピオでホームゲームを開催。応援グッズ配布やハーフタイムショーなどを実施し、地域密着型イベントとして開催することで、バスケットボールを通じた地域住民との交流や、学内での同部の認知を深めることを狙いとしている。本年度で6回目の開催となり、来場者は年々増加中。こうしたホームゲーム・イベントは、本学と東海大学のみの試みだ。TSA(つくばスポーツアソシエーション)の協力を得ながら、Bチーム



春の大会では、悪い流れになると、その場ですぐに5人で話し合って解決し、流れを断ち切ることができました。何度か逆転勝ちもしました」と、その成果に自信を持つ。

春の大会は、関東大学選手権大会3位、同新人戦準優勝と健闘したが、ここ数年、



のメンバーや公募した職員・学生メンバー
計17人が、企画・運営に当たっている。

ホームゲームの後もリーグ戦は続き、11
月末には、インカレが開催される。ホーム
ゲームはもちろん、その他の試合も、ぜひ
試合会場に駆けつけて、心を一つに戦う
選手たちを、熱い声援で応援して欲しい。

第88回関東大学バスケットボールリーグ戦

- 10/6(土)17:40 ~ vs 大東文化大学
- 10/7(日)17:40 ~ vs 明治大学
(つくばカピオ)
- 10/13(土)14:20 ~ vs 拓殖大学
- 10/14(日)16:00 ~ vs 東海大学
(和光市総合体育館)
- 10/20(土)14:00 ~ vs 青山学院大学
- 10/21(日)13:20 ~ vs 日本体育大学
(東海大学湘南キャンパス)
- 10/27(土)14:20 ~ vs 専修大学
- 10/28(日)13:20 ~ vs 早稲田大学
(未定)

第64回全日本大学バスケットボール選手権大会

- 11/19(月)~25(日)
(川崎とどろきアリーナ他)



前身の師範学校から140年の歴史を有し、オリンピックの
金メダリストを始め、優秀な選手を多数輩出している本学の体育会。
主な競技成績および今後の試合日程を紹介しますので、
是非、各フィールドに足を運び、熱き声援を送ってください。

【つくばスポーツ ONLINE】

<http://www.sports.tsukuba.ac.jp>

【筑波大学体育会】

<http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~taikukai/>

サ ッ カ ー 部

■ 2012天皇杯 茨城県予選 **優勝**

第86回関東大学サッカーリーグ戦(後期)

9/15 ~ 11/25 龍ヶ崎市陸上競技場たつのこフィールド他

剣 道 部

■ 第51回全日本女子剣道選手権大会

3位 山口美紀(体専2年)

第59回全日本学生剣道優勝大会 10/28 大阪府立体育館

第31回全日本学生剣道優勝大会 11/11 春日井市総合体育館

ダ ン ス 部

■ 第25回 全日本高校・大学ダンスフェスティバルin 神戸 NHK賞

体 操 部

■ 第8回全日本学生ラート競技選手権大会

【自由演技の部~男子種目別】

「斜転」「直転」**優勝** 安高啓貴(工学システム学類3年)

「跳躍」**準優勝** 安高啓貴/3位 星野崇(工学システム学類3年)

【自由演技の部~女子種目別】

「斜転」**優勝** 堀口文(体専4年)/**準優勝** 松浦佑希(同2年)/第3位 小出奈実(同3年)

「跳躍」**優勝** 堀口文/**準優勝** 松浦佑希/第3位 前原千佳(同4年)

「直転」**優勝** 堀口文/**準優勝** 松浦佑希/第3位 吉行暢子(同4年)

【規定演技の部~団体】**優勝** 堀口文・前原佑希・安高啓貴・吉行暢子

3位 相原利恵(同1年)・窪垣内瑞希(同2年)・松浦佑希

【規定演技の部~男子総合】**優勝** 安高啓貴

【規定演技の部~女子総合】**優勝** 堀口文/**準優勝** 松浦佑希/第3位 吉行暢子

第18回全日本ラート競技選手権大会 12/15 ~ 16 つくばカピオアリーナ

柔 道 部

■ 関東学生柔道優勝大会

【男子】**優勝** 【女子】3位

全日本学生柔道体重別団体優勝大会(男子・女子)

10/27、28 尼崎市記念公園総合体育館

2012年世界柔道団体選手権大会

10/27、28 ブラジル・サルバドール

講道館杯全日本柔道体重別選手権大会(男子・女子)

11/10、11 千葉ポートアリーナ

陸 上 部

■ 2012日本学生陸上競技個人選手権大会

【男子110メートルH】**優勝** 大室秀樹(体専4年) 13.54 **大会新記録**

【男子やり投】**優勝** 木村圭(同3年) 63m28

【女子100メートル】**優勝** 立山紀恵(同4年) 11.79

【女子三段跳】**優勝** 大坂阿玖里(同4年) 12m55

【女子円盤投】**優勝** 高橋亜弓(院1年) 51m14

東京箱根間往復大学駅伝競走予選会 10/20 自衛隊立川駐屯地

ラ グ ビ ー 部

2012年度ラグビー関東大学対抗戦Aグループ

9/9 ~ 12/1 秩父宮ラグビー場他

ハ ン ド ボ ー ル 部

全日本学生ハンドボール選手権大会(男・女) 11/14 ~ 18 福岡市民体育館他

弓 道 部

第44回関東学生弓道選手権大会 9/16 ~ 10/28 東京武道館他

E. S. S.

English Speaking Society



部員1人の危機を乗り越え、 強豪チームへと大躍進!!



「E.S.S.(English Speaking Society)」(廣瀬幸生顧問)は、英語ディベートの競技力向上に励んでいるサークル。E.S.S.というと、他大学では、ディベートの他にも、ディスカッションや英語劇などのセクションがある場合が多いが、活動をディベートに限定しているのが本学の特長だ。

同サークルは、国内最大の学生ディベート団体NAFA(全日本英語討論協会)に所属。2人対2人で、あるテーマについて、賛成と反対に分かれて戦い、第三者であるjudgeが勝敗を判定するというアカデミック・ディベート(NDTスタイル)に取り組んでいる。このNAFAでは、1年間の試合の勝敗数から算出するポイントが高いサークルを表彰していて、昨年、同サークルは全国第4位だった。さらに、年間で最も個人ポイントが高かったディベーターに贈られる賞を昨年度のチーフ、高村大器さん(人文学類4年)が受賞した他、「NAFAみちのく」大会で優勝、1年生最大の大会で、2年連続チーム優勝および個人優勝を果たすという好成績を残している。

「ディベートは、ほとんどの人が大学

から始めるので、1年生に、やり方や話し方、資料の使い方などを指導する教育がとても大事です。1年生大会で2年連続優勝したということは、本学の教育がすごくうまくいっているということだと思います」と、今年度のチーフ、小瀬真奈海さん(国際総合学類3年)は、今の強さがこれからも引き継がれていくことに自信を持っている。

しかし、わずか3~4年前は弱小サークルで、部員が高村さん1人となって、あわや消滅かという危機にも直面したのだという。高村さんが新歓活動に孤軍奮闘して20人近い1年生を集め、なんとか息を吹き返すことに成功。現在の部員数は35人となっている。

現役を引退した現在はNAFAの会長を務めているという高村さんが、カリス



このコーナーでは、課外活動として、演奏会や展覧会、発表会、大会、ボランティア活動などで、その腕前を披露している、文化系・芸術系サークルの催しを紹介します。

【筑波大学芸術系サークル連合会】ホームページ <http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~geisa/>

【筑波大学文化系サークル連合会】ホームページ <http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~bunsa/>



マの実力者で再興させたのかといえば、そうではないらしい。彼は、2年生の前期まで、対戦相手から質問されても黙っているというような、弱いディベーターだった。外部コーチの指導を受けたり、1年生の指導をしたりしている間に力をつけて、2年生の後期から徐々に結果を残すようになっていき、3年生で日本一のディベーターとなったのだ。テーマに対して、資料を集めて原稿を作り、練習を重ねてから試合に臨み、決められた時間・順番でスピーチするアカデミック・ディベートは、何よりも準備と練習が物を言う。それだけに、努力が報われる競技といえる。

英語力や筋道を立てて話す力、論理的に考える力、プレゼン力など、社会で役立つ力が鍛えられる英語ディベート。

シーズン中の半年間、一つのテーマについてディベートを行うので、深い知見も得られる。

「うまく説得できるとJudgeがうなずいてくれるのが嬉しい、と思ったことがきっかけで、ディベートが好きになった」という小瀬さんは、他大学の学生やOBと知り合う機会がたくさんあるのもこのサークルの楽しさだと語る。「試合の後には、対戦相手やJudgeの方々との親睦会があります。早稲田、慶応、東大など関東の大学の学生とすごく仲良くなり、オフに遊んだりもします。東北大学や九州大学のような遠い大学の知り合いもできました。Judgeは、引退した4年生やOBが務めることが多いので、試合のアドバイスだけでなく、就活のことや、社会でのいろいろな話が聞けます。

OBは、弁護士の方とか、日銀の方とか、すごい方ばかりで…。なかなか出会えないような、社会の一線で活躍している方々とお話しできて、すごくいい刺激を受けます」

シーズン中は、毎週末に試合があり、どの試合に出場するかは、各自の自由。2～3年生は、平均すると、半年に5試合くらいの本選に出場するという。今シーズンのテーマは「憲法9条の改正」。1試合ごとに、原稿を直したり、うまく答えられなかった質問への返しを考えたり。試合を重ねるにつれて、どの論述が強い説得力を持つかが掴めてくるので、内容を絞りこんでいく。狙うは、11月のALL Japan、12月のNAFATという全国大会の優勝だ。

雙峰祭

- 第38回 筑波大学学園祭
本年度テーマ「筑波協奏」
10/6、7、8(場所/本学内)

つくばフォーク村

- フェス(フェスティバル)
10/20

ときめき太鼓塾

- 10周年記念公演
10/24(場所/つくばカピオ) 18:30開演

合唱団むくどり

- 第32回定期コンサート～歌はあなたの…～
10/27(場所/つくばカピオ内ホール) 14:00開演

吹奏楽団

- 第68回定期演奏会
12/21(場所/ノバホール) 18:30開演

応援部 WINS

- 単独公演『桐華祭』
12/21

2012ロンドンオリンピック・パラリンピックで本学関係者が大活躍！

ロンドンオリンピックが7月27日～8月12日(現地時間)の17日間行われ、本学の学群生2人、大学院生2人、卒業生2人、修了生1人、附属小卒業生1人の8人が日本代表選手として参加し、本学学生が銀3、卒業生が銀1の合計4個のメダルを獲得しました。

また、ロンドンパラリンピックは8月30日～9月9日(現地時間)の12日間行われ、本学の学群生1人、附属視覚特別支援学校生1人、本学卒業生1人、附属学校卒

業生6人の計9人が日本代表選手として参加しました。競泳男子の山田拓朗選手(体育専門学群3年)が50m自由形で自己ベスト更新の4位入賞、ゴールボール女子の若杉遥選手(写真右)が金メダル、卒業生が金1、銀1、銅1の合計4個のメダルを獲得するなど、オリンピックと併せて、どちらも大活躍を見せてくれました。



写真:アフロススポーツ 平岡 拓晃選手

オリンピックメダリスト・入賞者一覧

銀メダル	
女子サッカー	安藤 梢 (人間総合科学研究科体育科学専攻3年:デュイスブルク)
女子サッカー	熊谷 紗希 (体育専門学群4年:フランクフルト)
柔道男子60キロ級	平岡 拓晃 (人間総合科学研究科体育科学専攻2年:了徳寺学園職員)
柔道女子78キロ超級	杉本 美香 (体育専門学群卒:コマツ)
5位入賞	
柔道女子48キロ級	福見 友子 (体育専門学群卒、人間総合科学研究科体育科学専攻修了:了徳寺学園職員)

パラリンピックメダリスト一覧

金メダル	
競泳女子 100m 青泳ぎ(S11)	秋山 里奈 (平成18年附属盲学校卒) ※パラリンピック新記録更新
ゴールボール女子	若杉 遥 (附属視覚特別支援学校高等部普通科2年)
銀メダル	
競泳男子 100m 平泳ぎ(SB11)	木村 敬一 (平成21年附属視覚特別支援学校卒)
銅メダル	
競泳男子 100m バタフライ(S11)	木村 敬一 (平成21年附属視覚特別支援学校卒) ※アジア新記録更新

パラリンピック入賞者一覧

4位入賞	
競泳男子 50m 自由形(S9)	山田 拓朗 (体育専門学群3年) ※自己ベスト更新
競泳男子 100m 青泳ぎ(S11)	河合 純一 (平成6年附属盲学校高等部卒)
陸上男子 4×100m リレー(T42/T46)	鈴木 徹 (平成16年体育専門学群卒) ※日本新記録更新
陸上男子 走高跳(F46)	鈴木 徹 ()
陸上男子 マラソン(T12)	岡村 正広 (平成20年理療科教員養成施設卒)
自転車 Bスプリント	大城 竜之 (平成14年理療科教員養成施設卒)
5位入賞	
陸上男子 5000m(T12)	堀越 信司 (平成19年附属盲学校卒)
競泳男子 100m 自由形(S11)	木村 敬一 (平成21年附属視覚特別支援学校卒)
競泳男子 50m 自由形(S11)	木村 敬一 ()
柔道男子 60キロ級	平井 孝明 (平成18年理療科教員養成施設卒)
柔道男子 66キロ級	廣瀬 誠 (平成12年理療科教員養成施設卒)
6位入賞	
競泳男子 100m 自由形(S9)	山田 拓朗 (体育専門学群3年)
競泳男子 100m バタフライ(S11)	河合 純一 (平成6年附属盲学校高等部卒)
自転車 B1km タイムトライアル	大城 竜之 (平成14年理療科教員養成施設卒)
7位入賞	
競泳女子 100m 平泳ぎ(SB11)	秋山 里奈 (平成18年附属盲学校卒) ※アジア新記録更新
8位入賞	
陸上男子 5000m(T12)	岡村 正広 (平成20年理療科教員養成施設卒)
準決勝進出	
ボッチャ 混合団体(BC1-2)	秋元 妙美 (平成9年附属桐が丘養護学校卒)



写真:アフロスポーツ 杉本 美香選手



写真:Press/アフロ 安藤 梢選手



写真:AP/アフロ 熊谷 紗希選手



写真:アフロスポーツ 山田 拓朗選手



写真:杉本 哲大/アフロスポーツ 鈴木 徹選手

ヤングなでしこ銅メダル獲得 本学の猶本光(体育専門学群1年)が攻守に健闘！

8月19日～9月8日の間に日本で開催された、FIFA U-20女子ワールドカップジャパン2012において、U-20女子日本代表(ヤングなでしこ)は、ナイジェリアとの3位決定戦を2対1で制し、U-20女子ワールドカップ史上初の銅メダルを獲得しました。

代表選手として、予選から全ての試合にボランチとしてフル出場した、本学の猶本光選手(体育専門学群1年)は攻守の要として活躍し、銅メダル獲得に貢献しました。今後は、フル代表(なでしこジャパン)を目指し、ますます活躍することが期待されます。

試合結果

8月19日		対 メキシコ戦		○ 4-1
8月22日	予選リーグ	対 ニュージーランド戦		○ 2-2
8月26日		対 スイス戦		○ 4-0
8月30日	準々決勝	対 韓国戦		○ 3-1
9月4日	準決勝	対 ドイツ戦		● 0-3
9月8日	3位決定戦	対 ナイジェリア		○ 2-1



写真：北村大樹／アフロスポーツ



写真：YUTAKA／アフロスポーツ

ブラジル主要大学学長等一行が本学を訪問

ブラジル高等教育支援・評価機構(CAPES)のジョルジェ・アルメイダ・ギマラエンス理事長を団長とした、ブラジル主要大学学長等一行総勢35人が、ブラジル政府が実施する「国境無き科学(CsF)プロジェクト(科学技術分野における海外留学促進、ブラジルでの外国人学生の受入による、同分野での人材育成を目的とするプロジェクト)」促進のため、7月30日に本学を訪問されました。

一行は、山田信博学長と懇談後、サイバニクス研究棟へ

移動し、システム情報系の山海嘉之教授(サイバニクスコア研究総括)のロボットスーツHAL等の研究内容の説明を受けました。

今回の本学訪問は、今後のブラジルにおける同プロジェクトの促進、ブラジルの大学と本学との交流、そして本学の国際化にとって大変有意義なものとなりました。



日本生物学オリンピック2012本選(つくば大会)開催

8月17日～8月20日の間、20歳未満で高等教育機関に就学する前の男女青少年を対象とする日本生物学オリンピック2012本選(つくば大会)が筑波大学を会場として開催され、全国3,113人が参加した予選(筆記試験)で選抜された77人のチャレンジャーが実験試験に挑みました。



最終日に、エポカルつくばで行われた表彰式には、金・銀・銅のメダルの他に特別賞として、筑波大学長賞等が贈られました。

また、浅島誠国際生物学オリンピック日本委員会委員長より、本選の会場提供および運営を行った本学に対し、感謝状が贈呈されました。



表彰式での記念撮影



筑波大学長賞を授与する赤平昌文副学長

常磐道守谷サービスエリアでの災害訓練に本学附属病院DMATが参加

NEXCO東日本(東日本高速道路株式会社)は、9月12日に災害訓練を実施し、本学附属病院DMATが参加しました。

訓練は、同日午前4時に首都直下型地震が発生し、EMIS(広域災害救急医療情報システム)のDMAT専用ページの掲示板上に、守谷サービスエリアが支援者の進出拠点



になっていることが掲示され、DMATに参集するよう指示が出されたというシナリオで行われました。

今回の災害訓練は、高速道路のサービスエリアを防災拠点(中継基地)とすることが可能かどうか、関係機関との合同訓練により検証を行うと位置付けられており、当院DMATから安田貢救急・集中治療部副部長、小笹雄司副看護師長、泥谷朋子副看護師長、澤田幸子副看護師長、五月女康作研究員、塚田紀明診療情報管理士が参加して、他のDMATと協力しながら現場活動等を行いました。



ひらめき☆ときめきサイエンスを実施

「生態系における土壌のはたらきを探ろう!～放射性物質と土壌生態系～」(実施責任者:田村憲司生命環境系教授)を8月20日に開催しました。

本プログラムは、高校生が対象で、土壌の役割や重要性を認識し、自然環境を保全する気持ちを大切にしてもらうことを目的としており、受講生8名が参加しました。

午前は、東照雄副学長からの挨拶から始まり、田村教授の「土壌とは何か、土壌の持っている様々な機能について」の講義の後、農林技術センターまで移動し、野外での土壌調査を行いました。午後からは、田村教授の講義「放射性セシウムの



土壌中での挙動と植物への影響」と「土壌試料へのセシウム(安定同位体)の吸収実験」を行い、土壌の持っている環境保全機能を中心に学びました。

プログラム終了後には、田村教授から受講生一人一人に修了証書の「未来博士号」が授与されました。



●主な受賞等一覧

受賞名	受賞者(所属・学年)	指導・研究室
Distinguished Reviewer of Zentralblatt MATH	西村泰一講師(数理物質系)	_____
日本風工学会出版賞	真木太一客員教授(生命環境系)	_____
CIGR(国際農業工学会)功績賞	真木太一客員教授(生命環境系)	_____
第34回日本呼吸療法医学会学術集会 最優秀ポスター賞	附属病院集中治療室チーム (筆頭演者:副師長/集中ケア認定看護師 柴優子)	_____
アジア・太平洋経済協力(APEC)プロジェクト 「授業研究による算数数学教育の革新—洪水と台風, 竜巻」を受託	磯田正美准教授(人間系)	_____
読書科学賞	塚田泰彦教授(人間系)	_____
2012年度日本熱測定学会 学会賞	齋藤一弥教授(数理物質系)	_____
日本生物環境工学会 50周年記念功績賞	真木太一客員教授(生命環境系)	_____
バイオインダストリー協会賞	小林達彦教授(生命環境系)	_____
読売教育賞 優秀賞	附属聴覚特別支援学校(代表 鈴木牧子教諭)	_____
第8回中曽根康弘賞	ズバイドゥロ ウバイドゥロエフ元研究員(人文社会科学研究科)	_____
APS International Early Career Physiologist Travel Award	岡本正洋研究員	征矢英昭教授(体育系)
第12回日本抗加齢医学会総会 優秀演題賞	兵頭和樹(人間総合科学研究科 体育科学専攻 博士後期1年)	征矢英昭教授(体育系)
財団法人日本英語検定協会第25回(2012年) 英検研究助成研究部門入選	濱田彰 (人文社会科学研究科 現代語・現代文化専攻 博士前期2年) 木村雪乃(人文社会科学研究科 現代語・現代文化専攻 博士前期2年)	卯城祐司教授(人文社会系)
2012 ICME International Conference on Complex Medical Engineering, Best Student Paper Award	Alexsandr Igorevitch Ianov (システム情報工学研究科 知能機能システム専攻 博士後期1年)	山海嘉之教授(システム情報系)
ICSM2012(合成金属国際会議)で Journal of Materials Chemistry (RSC) Poster Prize	川畑公輔(数理物質科学研究科 物性・分子工学専攻 博士後期3年)	後藤博正准教授(数理物質系)
国際スポーツ科学・教育・医学会議 若手研究者賞	李旼喆(人間総合科学研究科 日本学術振興会特別研究員DC2)	征矢英昭教授(体育系)
ICONE-20 Student Best Paper Competition	黒田泰平 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻 博士前期2年) 岩澤譲 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻 博士前期1年)	阿部豊教授(システム情報系) 金子暁子講師(システム情報系)
15th ICTAC-48th JCCTA The Student Poster Presentation Award	猪端沙希(数理物質科学研究科 化学専攻 博士前期課程1年)	齋藤一弥教授(数理物質系)
日本ソフトウェア科学会第29回大会 学生奨励賞(萌芽セッション部門)	田中麻峰 (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻 博士後期3年)	亀山幸義教授(システム情報系)
日本武道学会優秀論文賞	大石純子(人間総合科学研究科 体育科学専攻 博士後期3年)	酒井利信准教授(体育系)

※所属、職名、学年は受賞年時



『午前三時のルースター』で、サントリーミステリー大賞を受賞して作家デビュー。その後も数々のヒット作を世に送り出し、史上初の文学賞3冠受賞も果たした垣根涼介さん。今回は、1989年第二学群人間学類卒業の垣根さんにお話を伺いました。

垣根 涼介さん

作家

プロフィール

1966年	長崎県生まれ
1987年	筑波大学第二学群人間学類卒業
2000年	『午前三時のルースター』第17回サントリーミステリー大賞・読者賞をダブル受賞
2004年	『ワイルド・ソウル』大藪春彦賞、吉川英治文学新人賞、日本推理作家協会賞受賞
2005年	『君たちに明日はない』第18回山本周五郎賞受賞
2007年	『ヒートアイランド』 映画化
2010年	『君たちに明日はない』 ドラマ化(NHK)



— 本学の人間学類に入学された理由から聞かせてください。

社会心理学か言語心理学がやりたくて入りました。その当時、日本の大学で心理学を中心にして学べるのは、筑波だけだったんです。他の大学は、文学部か教育学部の一部としての扱いでした。筑波大学人間学類の案内には、心理学のいろんな分野が並んでいましたね。

— 本学を選んだことについて、今、どう思っていますか？

僕的には、筑波大学に行ったのは、全肯定です(笑)。一番良かったと思うのは、同じ学類の友達が、すぐ近くに住んでいたということです。半径100m以内ぐらいに、半分は住んでるんですから(苦笑)。そうすると、付き合う密度が濃くなる。都内の大学に行った友人とは全然違います。興味の対象が同じ人間と、朝

まで自宅で話したりしたことで、すごく影響を受けましたし、ためになりました。

— 作家になろうと考えたきっかけは？

最初の1年間は寮生活をして、2年から4年までは、小さな一軒家を借りて友人と2人で住んでいました。その友人は本好きで、時々、これだけは読んでおいた方がいい、という本を渡してくれました。村上龍の「コインロッカー・ベイビーズ」とかね。大学3年の時、彼が同人誌の代表になったんですよ。僕は、彼とは一番の仲良しでしたが、彼がいつも文学論を交わしている仲間とは全然つながりがなかったので、「俺には関係ねーや」と思っていたんですが、「お前も書けよ」と言われて。「やだ」と言ったら、「じゃ、ひと月くらい飯を作ってやる」と。超魅力的なわけですよ。飯に釣られて30枚くらい書きました。で、できあがっ

た同人誌を読んでもたら、散々文学論を交わしている奴らよりも自分の方がずっといいと思えて(笑)。周りからもそう言われて、「俺はひょっとしてイケる?」と思ったことが、一番最初ですね。

— その後、『午前三時のルースター』で作家としてデビューされるまで、幾つかの作品を書かれたのですか？

全く書いていません。結婚して、バブル期だった28歳でマンションを買ったら、その後不景気になって。勤めていた近畿日本ツーリストの給料が減り、ローンを組んで2年後に、「俺は3年後に破産する」とって気がついたんです。何かでお金を稼がなければいけないけど、正社員だからバイトはできない。一番賞金の高い文学賞に応募するために、仕事しながら、2年かけてこの作品を書きました。

— 初めて書いた作品で、サントリーミステリー大賞・読者賞をダブル受賞するのはすごいですね。

大学を卒業後、リクルートに入って、企業の仕事内容を取材して書くという仕事をしました。その時に、文章がうまくなりたいと思って、2年間で700冊ぐらい小説を読んだんですね。小説をたくさん読むと、自分なりに、大体のレベルがわかってきます。これくらい書ければ、なんとかいけるかなというところまで仕上げて応募したら、受賞しました。よく一発で入選するのはすごいと言われるんですが、正直言うと、10年以上作家であり続けることの方が大変ですよ。どんな仕事でもそうですが、その仕事を始めるより、長年やり続ける方が大変なものです。

— 3作目の『ワイルド・ソウル』では、大藪春彦賞、吉川英治文学新人賞、日本推理作家協会賞受賞と、史上初の三冠受賞を果たされました。ブラジル移民についての緻密な調査や取材が作品のベースになっていますが、過酷な過去の話を取材するのはとても難しかったのでは？

リクルートで企業の取材をしていたことや、近畿日本ツーリストで営業をやっていたことが役立っていると思います。法人営業で、社長さん相手の仕事ばかりしていたんですが、不満を聞いたり、世間話をしたり…相手の話を聞くことがすべてというような仕事でしたから。でも、『ワイルド・ソウル』のようなシビアな取材には、時間がかかりますよ。はい会いました、すぐ話してください、というわけにはいきません。話を聞くまでに1週間くらいかかった人もいました。一緒にドライブしたり遊んだりして、それで話が聞ければそれでいいし、聞け

なければ、それはそれで楽しく過ごそうと思って取材相手に接していました。

— その後、山本周五郎賞を受賞された『君たちに明日はない』は、作品のイメージがガラッと変わりましたね。

3作目までの作品で、ハードボイルドや冒険小説を書く、「冒険小説の新しい書き手」とか「犯罪小説の旗手」という扱われ方をしていたんです。その扱われ方は僕の本意じゃなかったんで、同じテーマを暴力や犯罪なしで書いたのが、『君たちに明日はない』です。

— 同じテーマとは？

僕は、ずっと、「自意識の変容」をテーマにやっています。どの作品も、「それまで信じてきた世界が崩れ去った時間に、その本人がどう変わって、どう生きていくか」ということにフォーカスしているんです。犯罪小説でも冒険小説でも、そしてサラリーマン小説(僕の中では『お仕事小説』というジャンルです)でも、ずっとそれをやり続けてきました。

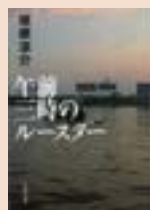
— 『君たちに明日はない』は、人気シリーズとなり、この5月には、4作目が発売されました。今後取り組みたいものは何ですか？

デビューした時から、10年後には、歴史小説を書こうと思っていて。今、歴史小説の一作目、明智光秀を書いています。これからは現代ものも多少書きますけれど、軸足は、そっちにいくでしょう。なるべく賞味期限が長いように書いてきましたが、現代小説というのは、どうしても腐っていくんですよ。よほどの名作でない限り、50年前の現代小説を読んでいる人は

いませんよね?でも、歴史小説は読まれています。僕が言う「自意識の変容」というテーマの話を、どうせ書くんだったら、あんまり鮮度が落ちない世界で書きたいなど。ただ、歴史小説と言うのは、知識が要りますから、小説を書きつつ、この13年間、ことある度に資料を読んでいました。ずっと、今の仕事もしつつ、将来の調べ物もしていたという状態でしたね。

— 最後に、作家になりたいと思っている学生や学生全体へのメッセージをお願いします。

「こういうものを書きたいから作家になりたい」というなら「あり」ですけど、「作家になりたいから」というなら「なし」でしょうね。その立場に立って表現したいものがあるから、その手段で作家というものがあるんで、作家が目標じゃめんどくさい。作家になることを目標にしちゃうと、作家になったとたんに終わっちゃいますよ。今、作家って年間150人くらい生まれているらしいんですが、10年たつと、3~4人しか残っていません。生存率を考えると、ほとんどいなくなるわけです。それを考えると、自分の中に、確固たる書くに値するものがあるから、その手段で作家というものがあればお勧めしますが、単に憧れでなりたいたいというだけならやめた方がいいと思います。学生全体には…まだ興味があることが見つかっていない人は、早く見つけてほしいです。興味がなくなると仕事をしてもつまらないし、努力もできないと思いますよ。ぜひ、なるべく早く興味のあることを見つけてください。



旅行代理店勤務の長瀬は、得意先の社長に、孫のベトナム行き付き添いを依頼される。少年の真の目的は、父親探しだった…。求めるもののために、今存在する自分の世界から突き抜けていこうとする人間と、突き抜られない人間の話。(文芸春秋刊)



偽りだらけの日本政府の移民政策により、アマゾンの奥地で命を落とした多く移民。死ぬよりつらい思いをした生き残りたちが、当時の責任者への復讐計画を実行に移す。マジメに、だが、明るく陽気に、ラテンのノリで爆走する冒険犯罪小説。(新潮社刊)



筑波大卒の主人公村上は、クビ切り専門の面接官。村上と被面接者が、失業という極限状況で、何を思い、何を感じるか…。昨日はメーカー、今日は銀行、明日は商社と、次々に依頼された会社のクビ切り面接を行っていく一話完結の物語。(新潮社刊)



『君たちに明日はない』第4弾。大手航空会社のCA、証券会社の元社員、楽器メーカーの管理職、ファミレス店長のエピソードを収録。村上は、より深く被面接者の心のひだに触れ、「あなたにとって、仕事をする意味とはなんですか?」と問い続ける。(新潮社刊)

附属視覚特別支援学校
中学部教諭
山口崇さん

損ね続けたカミさんの機嫌をリセットする思惑を含め、先日、ラオスに旅行。現地の人たちの温かさや実直さに触れ、心癒される日々。気づけば、「街中をせかせかと歩いているのはあんただけよ」と指摘される始末。メコン川の恵みに感謝したスローライフな生き方に、人生観を揺さぶられ自問自答。妄想から瞑想へ心の在り様を点検。目指すは、「泰然自若」で仕切り直し。この機会を利用して、ラオス盲人協会を訪問。視覚障害者の置かれた立場や教育について、意見交換。建物や情報機器といったハードの支援だけでなく、教育プログラムなどソフトの部分が重要と認識。現地のニーズに根ざした支援の在り方について考えさせられました。さて、カミさんの機嫌は上向き。このまま続いて、いつまでも！

次回は、桐が丘特別支援学校栄養教諭の青山妙子さんです。
「中学部オセロ交流会でお世話になった、優しい笑顔の先生です」



体育芸術エリア支援室
倉持雅子さん

我が家の愛犬とお気に入りのカフェを紹介します。写真の黒い犬が「ラッキー」12歳、ビーグルと柴犬のミックスです。とてもシャイな女の子。娘の友人宅で生まれ、生後1ヶ月で我が家にやってきてもう12年。娘のことが大好きです。白い犬は「モール」11歳、スピッツです。オスですが、歩く姿はとてもかわいくおしとやか。私たちが出かける時も帰った時も玄関で送り迎えしてくれます。2匹とも家族の一員。いつまでも元気でいてほしいと願っています。休日の楽しみはランチタイム。お気に入りのカフェは、つくば市竹園「プライムイタリアン」、梅園「アリスの茶屋」、北中島「しっぽな」です。よろしければ行ってみてください。

次回は、生命環境エリア支援室の川俣芳子さんです。
「独身の時からの友人で、息子・娘とも保育園から大変お世話になりました。誰に対してもとてもやさしい方です」



リ シ ー イ ッ サ イ

>>>

附属聴覚特別支援学校
副校長
伊藤僚幸さん

これといった趣味がない私が楽しみにしていることは、出張等で地方に行ったときの夜に立ち寄る居酒屋です。飲むこと食べることが大好きな上に、地元の方と気軽にふれあうことができる居酒屋は最高に楽しめる場所なわけです。最近行った居酒屋で気に入ったのが、金沢市の「市場めし 屯場(とんぼ)」と言う店です。刺身はもちろん、焼き魚が特においしい。店員さんおすすめの地酒もまた美味でした。金沢駅から歩いて行ける距離なので金沢に行かれた際には是非。次は、高知市の「ひろめ市場」という場所です。塩たたき・鯨竜田揚がおすすめ料理です。これからも「居酒屋巡り」を楽しみたいと思います。

次回は、東京キャンパス事務部学校支援課の山田巖さんです。
「面白い居酒屋を知っている方を考えたとき、山田副校長の顔が出てきました。仕事でもお世話になっています」



附属病院看護部
副看護部長
三ヶ田愛子さん

病院は今、12月26日の新病棟移転に向け多忙な毎日ですが、そんな中、お花(池坊)と茶道(表千家)のお稽古が心を癒してくれます。釜のかけられた室内に一步踏み込むとびんと張りつめた空気を感じ、床の間には季節の花と、花にふさわしい花器、折々の時季や行事にちなむ掛物、もてなしの心で見立て誂えられた茶道具等に出会い、となく忘れがちな季節感にひたります。また、室町時代から連綿と続く伝統文化の流れの一端にいたることの誇りと、次世代に伝えていく責務も感じながら、季節の和菓子と一服のお茶、お香の香りを楽しんでいます。TV番組ではありませんが「日本っていいな〜！」

次回は、芸術系准教授の貝島桃代さんです。
「芸術の学生さんによる『病院の患者さんをアートで癒す』ADP活動の指導をしてくださっています。素晴らしい企画にいつも感謝!!」



生命環境系
教授
江前敏晴さん



2012年4月に生命環境系に着任した江前敏晴です。東京からの2時間通勤を、筑波大学の広大なキャンパスと自然の豊かさに癒されています。私のオフィスのすぐ外ではお昼休みになると「エイヤー」との掛け声が聞こえてきます。聞くところによれば、鹿島神流と呼ばれる伝統武道とのことです。剣術と柔術を中心とする総合的な武道のように、私のそばでは専ら棒術の練習をしています。精神と肉体の鍛錬を行いながら文化の伝承にも貢献しているようです。思考中に突然始まって面喰うこともあります、つくばならではの活動を応援したいですね。

今回は、附属駒場中・高等学校教諭の千野浩一さんです。
「千野浩一先生は附属駒場高校の生徒が大学の研究室を訪問する体験学習プログラムを通したお付き合いです」

生命環境科学等技術室
大谷理さん



皆さんは大学内にふしぎな道がいくつかあることを御存じでしょうか？たとえば第三エリアゲート駐車場から東方向に伸びペDEST

リアンに突き当たる道や、医学ゲート駐車場で駐車スペースを斜めに分断する誘導路です。これらの道は筑波大学の建学以前に近隣の集落を結んでいた街道の名残です。学園都市では消えてしまった旧道が大学構内では所々に残っている場所があります。追越学生宿舎の13号棟の北側は今では草原ですが、それでも注意深く観察するとかつて東平塚と妻木の集落を結んでいた街道の名残を見つけることができます。

今回は、保健管理センター(学生部学生生活課)の平田三代子さんです。
「健康の相談などの時に優しく丁寧に教えてもらっている看護師さんです」

T S U K U B A C O M M U N I C A T I O N

数理物質系
教授
長崎幸夫さん



米国、日本(本人)、アルゼンチンのコラボ...

そばを打ったり、ビールを造ったり、これまでいっ～んなものに手を出してきましたが、振り返ってみると、下手の横好きというか、趣味といえるまでに発展してきたものがな～んにもありません。残ってるものといえば、「のめやうたえの大騒ぎ」でしょうか…。世界共通語になりつつあるKARAOKEですが、まだまだ知らない外国人がたくさん居ます。つくばを訪れた外国人を連れて「KARAOKE」を訪れ、大きな声でのめや歌えの大合唱。するとみんなだんだんそわそわ…。しまいいはマイクを離さ～ず。世界中どこに行っても同じですね。英語やスペイン語の歌を交えて騒ぎまくとストレスも飛んでく…？

今回は、医学医療系講師の松井裕史さんです。
「三十余年のつくばのヌシ。何が飛び出すかわからない奔放さに惹かれます」

システム情報エリア支援室
高田一平さん



小さいころからお祭りが好きで、今も8月5日に千葉県匝瑳市の祇園祭へ参加しています。この祭最大の見どころは、10町内から大小30基の神輿が集まりお囃子に合わせて勇壮に練り歩く「連合渡御」です。また全国的に珍しい女神輿渡御も催されます。地元のスターである地井武雄さんもこのお祭りが大好きで、毎年来ていました。ここでお囃子を吹いたことが楽器を始めるきっかけとなり、今は東京のアマチュア・オーケストラでクラリネットを吹いています。いろいろな音楽を糧としてきましたが、原点はここのお囃子だと行くたびに思います。

今回は、教育推進部入試課の谷本昌弘さんです。
「穏やかな人柄で誰からも好かれる若手のエース。スポーツから仏像まで、幅広い趣味をお持ちです」

地域貢献 「夏休みアート・デイキャンプ&アートたんけん隊」



指導をする太田圭准教授(芸術系)

本学芸術系の社会貢献活動として、7月21～22日に、小・中・高生を対象とした「夏休みアート・デイキャンプ&アートたんけん隊」が実施されました。

本年度で5回目となる「アート・デイキャンプ」では、2カ所の会場に、実物大のダビデ像などの石膏像の他、花や果物、鳥の剥製などさまざまモチーフを用意。子どもたちが、好きなモチーフを選んで自由に絵を描いているところを、芸術の教員3～4人と、洋画・日本画・版画専攻の学生・大学院生約20人が、アドバイスをして回りました。

小学校低学年には、褒めるコメント主体に、高校生には技術的なアドバイスを…相手に応じて、丁寧に話かけていく教員や学生たち。小学生も、中・高校生も、嬉しそうに、そして、真剣に話を聞いていました。「見たままなんとなく描いていたら、画用紙に直線を引いて、角度を測りながら正確に描くことを教えてもらって、すごくよかったです」と喜んでいたのは、石膏デッサンのアドバ

イスを受けた女子高生。

一方で、小学校低学年の男の子が、男子高校生の絵をのぞき込んで、「ここがすごくいいね」と指さすシーンも。幅広い年齢の子どもたちが一堂に会して絵を描くことで、互いがいい刺激を受けることもこの企画の狙いの一つになっています。

参加者は年々増加し、今年は、2日間で400人以上の小・中・高生が参加。作品展には、277点の作品が集まり、後日行われた表彰式では、日本芸術院会員である洋画家・山本文彦名誉教授を審査委員長とする審査委員たちに選ばれた優秀作品44点が表彰されました。

「アート・デイキャンプ」が、「制作」の美術教育であるのに対し、「アートたんけん隊」は、「鑑賞」の美術教育プログラム(指導:石崎和宏准教授(芸術系))。本年度で2回目の開催で、両日1回20人限定で実施しました。

このプログラムは、大学院生をガイドに、ギャラリーやホールなどにある芸術

作品を、ゲームやクイズを交えながら楽しく鑑賞していくツアーで、子どもたちが芸術鑑賞の楽しみ方を学ぶ工夫が散りばめられています。

「過去の参加者が本学の芸術専門学群に入った、というような話を聞くのはとても嬉しいことです。でも、ここに来たみんなが美術の道に進むわけではありません。子どもたちに『絵を描いたり、美術作品を鑑賞したりすることは楽しい』という体験をしてもらうことで、どんな道に進もうと、生涯にわたって美術に親しむ人になってもらいたいと考えています」と、初回からこれらのイベントを統括している太田圭准教授(芸術系)がその想いを語ってくれました。



全作品展—7/31～8/9 【総合交流会館】
入賞作品展—8/13～8/26 【つくば市役所】



高校生には専門的に指導



目隠したペアに言葉で絵を説明する目隠しゲーム

Tsukuba Supporters

病院
ボランティア

本学を内外から応援(サポート)していただいている団体を紹介します。

[病院ボランティアとは] 本学附属病院において、よりよいサービスの提供や、患者さんが療養しやすく精神的な安らぎを得られる環境づくりを目指しているボランティア活動です。



附属病院ボランティア活動20年記念式

国立大学附属病院では初めてとなる病院ボランティア組織、「筑波大学附属病院ボランティアの会」が発足して20年。これまでに、約400人のボランティアが活動してきました。茨城県から度々表彰されるなど、県内の「病院ボランティア」の先駆者として、その活動は高く評価されています。

本学「附属病院ボランティアの会」には、

- ①総合案内(外来ホールで、外来患者さんの手続き、案内、送迎のお世話)
- ②成人病棟(患者さんの話し相手や身回りのお世話)
- ③小児病棟(患者さんの遊び相手、介助)
- ④読み聞かせ(小児病棟で、本や絵本の読み聞かせを実施)

という4つのグループがあり、現在34人の会員はいずれかのグループに属して、週1回(総合案内は平日午前中、読み聞かせは火曜午前中、その他は全日)、30分～4時間ほど活動しています。

「本学の病院ボランティアの一番の特長は、自立していることです。こちらから指示することは一切なく、自発的な意思で、必要に応じたお手伝いをしてくださっています」と、看護部長の白川洋子さん。

具体的には、車椅子を押したり、お茶を入れたり、話し相手や遊び相手をしたり、本を読み聞かせたり…家族のように患者さんたちの心に寄り添って、医師や看護師の手が回らない細やかなサポートをしています。

「先日は、お子さんに付き添っているお母さん3人から、『ランチをする間、子どもたちを見ていて』と頼まれました。看護師さんには頼みにくいことを、遠慮なく言えるのがボランティアなのです」(小児病棟担当・内田千恵子さん)

来院者の身近にいるボランティアは、病院の環境整備にも貢献しています。病院職員との交流会などの機会に、日々の活動で気がついた病院の問題点を提起。「車いすが不足」「付き添い者の食事場所がない」など、今まで指摘した問題点のほとんどが改善されてきました。

本学附属病院は、本年12月に、新病棟「けやき棟」が完成する予定で、よりいっそう多くのボランティアの力を必要としています。学生の方々にも、学生ならではの活躍の場があります。

「人生で一番つらい時期を過ごしている人々に寄り添うことは、自分の学びになります。特に、学生さんにとっては、相手思いやり、何をすればいいか自分で考えるこのボランティア活動は、自分が成長する大きな機会になると 생각합니다」とは、会長の岩堀隆子さんからのメッセージ。

現在、同会では会員募集中です。活動に関心を持たれた方は、下記ホームページをご参照ください。

附属病院ボランティア

<http://www.hosp.tsukuba.ac.jp/recruit/volunteer.html>



①総合案内



②成人病棟



③小児病棟



④読み聞かせ

本学同窓会組織の茗溪会からの情報や話題などを読者の皆様へ紹介します。

〔茗溪会とは〕 一般社団法人茗溪会（江田昌佑理事長）は、筑波大学同窓会を母体とする社団法人で、1882年に設立されました。同会は、筑波大学およびその前身諸学校（東京教育大学、東京文理科大学、東京高等師範学校、東京農業教育専門学校、東京体育専門学校、図書館情報大学など）の卒業生により組織されており、現在の会員数約5万4000人を数え、その6割以上が筑波大学卒業生となっています。

「やどかり祭」

学生宿舎の学生による第38回宿舎祭「やどかり祭」は、5月25日（金）前夜祭、26日（土）本祭が行われました。

昨年、雨の影響で本祭を断念したのですが、今年は前夜祭が雨で中断したものの、本祭は大いに盛り上がりました。

前夜祭では、「世界3分の1選手権」や「ミニステ」「大演芸」などの後、雨のために中断しました。

翌日の本祭は、鈴木久敏副学長、茗溪会堀内昭三理事はじめ来賓も出席して

オープニングセレモニーがあり、次いで吾妻小学校のマーチングバンドの子どもたちによる演奏の後、及川哲平宿舎祭実行委員長が開幕を宣言しました。本祭は、各学類から御輿が展示され、やどカラ祭、ダンス、漢祭り、もちつきなど盛りだくさんの企画があり、恒例のゆかたコンテストで締めくくりました。

やどかり祭
オープニングで挨拶する
堀内昭三・茗溪会理事



筑波大学で茗溪学園が「つくばジュニアサイエンスキャンプ(IJSC)」



今年度からコアSSH（スーパーサイエンスハイスクール）指定校となった茗溪学園は、筑波大学（生命環境学群・理工学群）と共催で、小学生を対象（参加46人）

としたサイエンスキャンプを7月27日、28日に筑波大学および茗溪学園を会場として実施しました。

このキャンプは、茨城県内の新旧SSH指定校の高校生が主体となって科学実験等の活動を小学生に指導することを通じ、高校生自身の科学に対する興味関心と「サイエンスコミュニケーター」としての能力を向上させることを目標としています。筑波大学の先生方と大学院生の支援の下、指導の高校生たちの事前研修を筑波大学で何度も重ねた上で、当日実施の運びとなりました。

キャンプ初日は、筑波大学を会場に化

学と生物学の実験を交代で行いました。化学では染料を合成した後に染め物を体験、生物学ではザリガニを解剖し、体の構造をすみずみまで観察しました。その後、場所を茗溪学園に移して科学ゲームなどのプログラムを行い、茗溪学園の学寮に1泊し発表会を行いました。



小学生を指導する茗溪学園等の高校生（筑波大学にて）

茗溪会学生活動支援団体決まる

茗溪会の今年度の学生活動支援事業による助成団体は、8月23日の選考委員会での次のとおり15団体に決まりました。

- | | | |
|---------------|-------------|---------------------|
| ○学び場さくら塾 | ○ときめき太鼓塾 | ○Hs CaT |
| ○斬桐舞 | ○宇宙工学研究会 | ○筑波学生文芸賞運営委員会 |
| ○サイクリング部 | ○応援部 WINS | ○つくば院生ネットワーク (TGN) |
| ○オリエンテーリング愛好会 | ○THK 筑波放送協会 | ○茨城県復興夏祭り実行委員会 |
| ○人形劇団 NEU | ○ライフセービング部 | ○ふるさとつくば ゆいまつり実行委員会 |

本学の父母会組織である紫峰会からの情報や話題などを読者の皆様へ紹介します。

【紫峰会とは】 紫峰会は、筑波大学生の課外活動などを支援するために1977年に設立された学生後援会です。主な事業は課外活動助成事業（援助金の支給など）、学生生活支援事業（緊急貸付金、コピーサービスなど）、広報・普及事業（紫峰会報の発行、UTcollectionの制作・販売など）です。学生の保護者、卒業生とそのご父母の方、教職員など約1万人が入会しています。このコーナーでは、紫峰会が行っている様々な活動を紹介していきます。

紫峰会WEBについて

紫峰会WEBは、紫峰会の事業の紹介以外にも、筑波大学の課外活動団体の活動や学生の生活の様子を伝えることを目的にしています。このため多岐にわたるコンテンツを有していますが、これらは全て「紫峰会NetProject」という学生ボランティアが作成・管理しています。紫峰会WEBは自前のWEBサーバにて運営されており、phpとMySQLを使用してWEB上での記事の投稿や編集・削除を行える仕組みを整えています。主なコンテンツとして、紫峰会報PDF版が創刊号（1980年10月1日発行）から最新の132号まで公開されているほか、大学や学生の行事の風景画像を掲載した「フォトギャラリー」や、過去のイベントなどのポスターギャラリーなどがあります。現在もまだまだ

発展途上で、筑波大学に関心がある人全員が見てくれることを目指して、日々コンテンツを拡充させています。

新しい取り組み

2012年、体育会と紫峰会NetProjectが協力して作成した体育会所属団体の活動予定や結果を体育会WEB上で報告し、公開するシステムがスタートしました。所属団体は体育会本部に対して月々の活動を報告することになっており、これまでは紙やデータで提出されていました。これをWEB上の入力フォームで登録できるようにしたもので、スマートフォンなどを使用すれば作業や提出の場所を選



びません。また、これまでは提出された紙情報やデータを元にHTMLファイルを作成しなければ体育会WEBページに表示できませんでしたが、即座に反映することが可能になりました。このように学生組織などと連携してインターネットの様々な活用を考えていくこともNetProjectの大きな目的の一つです。

男ども 熱く歌い上げよ！ 魂の歌

昨年の6月、筑波大学にメンネルコール（ドイツ語で男声合唱団のこと）が復活した。復活させたのは、人文学類1年（当時）の川邊貴英君だ。

きっかけは、大学の合格発表の時。志望校に合格した喜びをかみしめながら、社会科教諭の角海紀雄先生（自然学類4期生）に挨拶をした、まさにその時だった。「大学にいても、男声合唱を続けるのか？」「はい！」先生の手には、筑波大学メンネルコールの10周年誌。「メンネルコールを復活させ、男声合唱をやりたい。」そんな川邊君の願望が、その瞬間、確信へ変わったのである。

入学後、早速サークル設立に向けて動い

た。まずは、紫峰会で設立の相談をし、一緒に男声合唱をやるメンバーを集めた。6月にはT-ACTに登録。2003年に解散したメンネルコールだったが、約10年ぶりに1977年からの流れを復活させた。その後も演奏を行う、学園祭に出店する等、順調に活動を行ったこと、学群1年生から意欲的にプランナーとして頑張ったことが評価され、川邊君は2011年度下半期T-ACT最優秀賞を受賞した。なお、メンネルコールは2013年1月より芸術系サークル連合会に準加盟となる。

復活した現在のメンネルコールには川邊君の思想が色濃く反映されている。特に面白いのは、男声合唱団であるのに女性がメンバーにいたこと。「男性だけだと雄々しく力強い音楽になる半面、内輪受けになってしまう傾向がある。しかし、女性がいることで優しさや女性ならではの視点を音楽に反映させることができ、男声合唱の可能性をより大きくできる」と川邊君は語る。また、最近の若



メンネルコールの皆さん

者は深い人間関係を築けない、と言われていたが、メンネルコールでは敢えて深い関係を築くように活動している。練習時に「音が外れている」というようなことを、経験の有無や先輩後輩関係なく言い合う。気の置けない仲間同士で、遠慮せず、初心者でも気軽に発言できる「場」を保障すること、そしてそれをお互いに創っていくことが川邊君の狙いだ。

メンネルコールはつくば市の合唱連盟にも属し、学生同士の垣根を越えた地域交流も行っている。OBに対しても積極的に演奏会情報などの近況報告をメールにて行っており、昨年の学園祭にはOBが差し入れに來たりと、現役と30人程度のOBを繋ぐ架け橋としての役割も川邊君は果たしている。

今後はつくば市の文化祭音楽会等にも出演する予定。これからの活躍にも期待したい。



角海先生(左)と川邊君(右)

Media Appearances

本学関係の主な新聞掲載・テレビ放送一覧(6月～9月)

● 新聞記事一覧

	記 事	掲載本学関係者	掲載紙(掲載日)
1	竜巻被害をうけたつくば市北条で、「北条復興づくり協議会」が開かれ、商店街の復興や新たな街づくりについて協議した。安藤邦廣教授と藤川昌樹教授らの調査チームは、竜巻被害を受けた歴史的建物85棟のうち、83棟は修復可能という調査結果を報告	安藤邦廣教授(芸術系) 藤川昌樹教授(システム情報系)	茨城(6.16/17) 産経(6.16) 東京(6.16) 常陽(6.17) 日本経済(6.19)
2	本学附属高等学校の田代博教諭が、地図閲覧ソフトで、スカイツリーが見える可能性がある範囲を計算	田代博教諭(附属高等学校)	朝日(6.20)夕
3	本学学内に、「シェードスペース」という概念で設計された道路ができた。全長約4キロのループ道路の一部260メートルにわたり、車道全体にケヤキと葉の模様を描き、道路両脇1.5メートルを自転車専用レーンにした	西川潔名誉教授 山本早里准教授(芸術系)	朝日(6.25)
4	本学が、中国・上海の華東師範大内に、「上海教育センター」を開設	上海教育センター(中国) 北アフリカ・地中海事務所(チュニジア) 中央アジア事務所(ウズベキスタン) ホーチミン事務所(ベトナム) 北京事務所(中国)	産経(6.25)
5	日下博幸准教授らの研究グループは、2070年代の8月の平均最高気温は、東京、大阪、名古屋で、現在より2度以上高くなることを、本学計算科学研究センターのスーパーコンピュータで予測	日下博幸准教授(生命環境系 計算科学センター)	茨城(6.29)
6	文部科学省は、7月3日午後4時から、公開討論会「筑波大学とオリンピック」を省内の情報広場ラウンジで開催	嘉納治五郎 元東京高等師範学校校長 金栗四三(OB:マラソン選手) 加藤澤男特命教授 山口香准教授(体育系)	常陽(6.30)
7	つくば中央署は、本学学生部学生生活課の土子昇さん他1名に、定住外国人と警察との橋渡し役である「コミュニティーリーダー」を委嘱	土子昇(学生部学生生活課)	常陽(6.30)
8	▽茨城論壇「阿江通良副学長(教育担当)。オリンピック・ムーブメントの目指すところは、観戦者が、勝利を収めた選手だけでなく、負けた選手を温かく迎えられる真のスポーツ愛好家になること	阿江通良副学長	茨城(7.7)
9	東日本大震災の被災者を支援する本学生の有志団体「Tsukuba For 3.11」の7人が、福島第一原発事故で福島県内から避難している人たちをコミュニティー紙でつなぐため、月刊「つくしま」を創刊	吉井玲香(OG・かすみがうら市立下稲吉中学校講師) Tsukuba For 3.11(被災者支援団体)	茨城(7.8)
10	本学は、ロンドン五輪とパラリンピックの開幕を控え、本学の現役、卒業生と役員の壮行会を開催 柔道女子78kg超級杉本美香選手、78kg級緒方亜香里選手、女子48kg級福見友子選手、男子60kg級平岡拓晃選手は、それぞれ金メダル獲得を宣言。パラリンピックでは、競泳男子の 山田拓朗選手、ゴルフの若杉選手、陸上競技の鈴木徹選手、ボッチャの秋元妙美選手も力強く決意を表明 山田信博学長や、体操で金メダル8個を獲得した加藤澤男特命教授がエールを送った 本学関係者は、五輪に8人、パラリンピックに9人の選手が出場、22人が医師やコーチ、審判などで支える	山田信博学長 加藤澤男特命教授 杉本美香(OG:コマツ) 緒方亜香里(体育専門学群4年) 福見友子(OG:了徳寺学園職員) 平岡拓晃(人間総合研究科博士前期2年:了徳寺学園職員) 山田拓朗(体育専門学群3年) 若杉選手(附属視覚特別支援学校高等部普通科2年) 鈴木徹(OB:ブーマージャパン) 秋元妙美(附属桐が丘特別支援学校卒)	毎日(7.10) 読売(7.10) 産経(7.10) 茨城(7.10) 常陽(7.10) 東京(7.11)
11	茨城県は、本学に、県立こども病院における寄付講座を設置。附属病院・県小児地域医療教育ステーションに2人、大学に1人医師を配置する計画で、小児科医の育成と、小児医療の充実・強化を目指す	附属病院	常陽(7.11)
12	本学下田臨海実験センターで、時間を知らせず、巨大津波を想定した避難訓練を実施	下田臨海実験センター	朝日(7.11)
13	人間総合科学研究科 征矢英昭教授、10分でも、ジョギングなど軽度の運動をすると、脳の前頭前野が活性化し、類推、選択、判断の機能が上ったり、海馬が活性化し、本能的な欲求が抑制され、認知機能が高まる	征矢英昭教授(体育系)	日本経済(7.20)
14	五輪は、その歴史や背景も考えながら見ると、さらに面白い見方ができると真田久教授	真田久教授(体育系)	読売(7.23)
15	▽いじめられている君へ:土井隆義教授、いじめのターゲットにされた人に責任はない。友達づくりが苦手でも気にすることはない	土井隆義教授(人文社会系)	朝日(7.23)
16	本学澁谷彰教授らは、敗血症の発症を促すたんぱく質を発見したと発表	澁谷彰教授(医学医療系)	日本経済(7.24) 産経(7.29) 読売(7.29) 朝日(7.30)夕
17	本学の守友浩教授らは、顔料プリシアンブルーの類似体を使った沈殿法により、水に溶けた微量の放射性セシウムを効率的に回収することに成功した	守友浩教授(数理物質系)	日刊工業(7.24) 日経産業(7.25)
18	征矢英昭教授らの研究グループが、軽い運動が、脳の記憶をつかさどる海馬の男性ホルモンの濃度を高め、新しい神経細胞の増加を促進させるメカニズムを解明したと発表	征矢英昭教授(体育系)	茨城(7.26) 朝日(7.30)
19	▽探求:眠りにかかわる神経伝達物質「オレキシン」の発現者柳沢正史教授、研究を通して、睡眠と覚醒の根本に迫る	柳沢正史教授(分子行動科学研究コア)	読売(7.26)夕
20	ロンドン五輪柔道日本代表男子60 ⁺ kg級平岡拓晃。北京五輪の雪辱を晴らし、銀メダル	平岡拓晃(人間総合研究科博士前期2年:了徳寺学園職員)	朝日(7.30) 毎日(7.30) 読売(7.30) 日本経済(7.30) 産経(7.30)
21	山本洋平准教授らの本学研究チーム、理化学研究所などの共同研究グループは、カーボンナノチューブ(CNT)を従来の1000倍に高分散化させて配向性や電気伝導性の制御を可能にした液晶材料の開発に成功	山本洋平准教授(数理物質系)	日刊工業(8.1)
22	難病「筋萎縮性側索硬化症(ALS)」の治療に有効な物質を発見したと、京都大IPS細胞研究所や本学玉岡晃教授らのチームが発表	玉岡晃教授(医学医療系)	産経(8.2/8.13) 日刊工業(8.2) 読売(8.2)
23	本学「創造的復興プロジェクト(CR)」が、ロンドン五輪自転車トラック男子代表で、福島・双葉出身の渡辺一成選手を応援するパブリックビューイングをつくば市並木で開催	山本早里准教授(芸術系) 片岡純也研究員(芸術系) 創造的復興プロジェクト(CR)	朝日(8.2)
24	ロンドン五輪柔道女子78kg超級杉本美香選手の銀メダル獲得に、山口香准教授が「よく頑張った」とたたえた	山口香准教授(体育系) 杉本美香(OG:コマツ)	毎日(8.5)
25	本学と稲敷市によるまちづくり連携事業の一貫として、食を通したまちづくりを考えるワークショップを開催	貝島桃代准教授(芸術系)	常陽(8.6)
26	欧州合同原子核研究機関(CERN)にある大型ハドロン衝突型加速器(LHC)で、「ヒッグス粒子」とみられる新粒子を発見した東京大学や本学などの国際共同実験チームが、最新のデータを発表	金信弘教授(数理物質系) 原和彦准教授(数理物質系)	日本経済(8.7)
27	つくば市民活動センターは、本学学生グループ「Tsukuba For 3.11」の協力を得て、福島県第1原発事故の被害を受けたいわき市の子どもたちを2泊3日の合宿に招いた本学の柔道場で、長谷川聖修教授に体操、増地克之講師に柔道の指導を受けた	長谷川聖修教授(体育系) 増地克之講師(体育系) Tsukuba For 3.11(被災者支援団体)	茨城(8.9)
28	桑山秀一講師が、高濃度カフェインの刺激で合成されたアラキドン酸が、細胞死を促進していることを解明	桑山秀一講師(生命環境系)	毎日(8.15)
29	本学は、9月1日が毎週土曜日5回連続で、放射線の科学重点公開講座を開催	松本宏教授(アイソトープ総合センター長) 三好康郎教授(数理物質系) 恩田裕一教授(生命環境系) 末本啓介准教授(数理物質系) 古川純助教(生命環境系)	毎日(8.20)
30	三谷純准教授らは、家具類の三次元CG画像から、自動的に分解図を作成するソフトを開発	三谷純准教授(システム情報系)	日経産業(8.23)
31	▽U-20女子W杯:文武両道を目指すMF猪本光。なでしこジャパンで活躍する安藤、熊谷の後に続き、浦和に所属しながら、本学に通う	猪本光(体育専門学群1年) 安藤(人間総合科学研究科博士後期3年 ドイツ・デュスブルク) 熊谷紗希(体育専門学群4年 ドイツ・FCフランクフルト)	東京(8.29)
32	ロボットスーツ「HAL」を使って足の運動障害を改善するという世界初の臨床試験が年内に開始	サイバニクス研究センター サイバードライン 山海嘉之教授(システム情報系)	日本経済(9.6)

● テレビ放送一覧

	内 容	出演本学関係者	放送局・番組(放送日)
1	本学とミズノがロンドン五輪のために陸上競技・マラソン選手のシューズを共同開発	チーム「ニッポン」マルチサポート事業	日本テレビ 「真相報道 バンキシャ!」(7.15)
2	恐怖のサルコベニア肥満 太らない体を作るマル秘ダイエット術	久野譜也教授(体育系)	日本テレビ 「世界一受けたい授業」(8.11)

[10 october]

- 1日(月) 開学記念日
第2次選考「ACI、オリンピック」(~12)
- 6日(土) 学園祭(~8)
第15回ホームカミングデー
- 17日(水) 学長主催留学生懇談会
- 18日(木) 合格発表「ACI、オリンピック」
- 20日(土) 秋季スポーツ・デー(~21)
- 21日(日) 筑波大学出身経営者の会
- 22日(月) 研究会
「物性物理学の視点からの二次電池研究」
学際物質科学研究センター
- 27日(土) 全学停電(~28)



[12 december]

- 3日(月) 第3学期授業開始
第6回つくば3Eフォーラム会議(~4)
- 6日(木) 合格発表「推薦/帰国(体・芸)」
- 12日(水) つくばアクションプロジェクト
公開シンポジウム
- 22日(土) 「科学の芽」賞 表彰式・発表会
- 27日(木) 冬季休業(~1/6)

[11 november]

- 25日(日) 第32回つくばマラソン
- 26日(月) 秋季休業(~30)
- 28日(水) 入学試験「推薦/帰国(体・芸)」(~29)





筑波大学
University of Tsukuba